

山田線利用促進アクションプラン

(令和8年度～令和11年度)

悠久の歴史と鉄道ロマン—感じ、考え、利用する。—

令和8年1月

J R山田線沿線自治体首長会議

目次

第1章 山田線利用促進アクションプラン策定の趣旨	1
1-1 アクションプラン策定の目的	1
1-2 アクションプランの位置付け	1
1-3 アクションプランの期間	1
第2章 山田線と沿線地域の概要	2
2-1 山田線の概要	2
2-2 山田線を取り巻く環境の変化	6
第3章 山田線利用実態調査から見る利用実態とニーズ	10
3-1 調査の概要	10
3-2 調査の結果	11
3-3 考察	24
第4章 山田線利用促進アクションプラン	25
4-1 現状と課題	25
4-2 スローガン	25
4-3 基本方針	26
4-4 計画の目標	26
4-5 事業・プロジェクト概要	27
第5章 計画の推進体制と進め方	43
5-1 推進体制	43
5-2 進行管理	43

第1章 山田線利用促進アクションプラン策定の趣旨

1-1 アクションプラン策定の目的

山田線は、大正12年（1923年）に盛岡駅・上米内駅間の開業を皮切りに、順次路線を延伸し、昭和の経済成長を支え、沿岸部と内陸との旅客・物流を支えてきた路線です。

令和の現在では、盛岡駅～上米内駅間、宮古駅～川内駅間は、通勤・通学・通院・買い物などの生活路線であり、沿線住民の日常生活に欠かすことのできない移動手段であります。また、盛岡駅～宮古駅間は、盛岡八幡平広域観光エリアの一翼を担うとともに、三陸鉄道に接続し、沿岸地方へのアクセスとして重要な路線であり、災害時には代替性・補完性を発揮する交通インフラとしての役割も有しています。

内陸と沿岸が鉄道で結ばれていることにより、新幹線とのアクセスが良好に保たれ、首都圏からの誘客やインバウンドの需要にも対応するなど、鉄道利用の利便性が保たれています。

一方、山田線の利用者は大幅に減少しており、厳しい状況が続いています。

このことから、令和5年1月に盛岡市、宮古市及び岩手県で沿線自治体首長会議を立ち上げ、山田線の維持に向け、沿線住民の意識醸成や利用促進等に取り組んでいるところです。

また、JR東日本盛岡支社と岩手県北自動車は、令和6年4月から、公共交通の利用促進及び岩手県県央部と沿岸部間の利便性向上の検証を目的に、山田線と106特急・急行バスとの連携による利便性向上施策（実証実験）を実施してきました。令和7年4月からは、「地域における一般乗合旅客自動車運送事業及び銀行業に係る基盤的なサービスの提供の維持を図るための私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律の特例に関する法律」（以下「独占禁止法特例法」）第9条第1項^{注1}の規定に基づき、共同経営の認可を受け、利便性向上を図っております。

引き続き、路線の維持に向け、中長期的な視点で関係者が連携し利用促進策を実施していくため、その指針となる「山田線利用促進アクションプラン」を策定するものです。

1-2 アクションプランの位置付け

盛岡市と宮古市では、各市の公共交通のマスタープランとなる「盛岡都市圏地域公共交通計画（令和7年度策定）」「宮古市地域公共交通計画（令和5年度策定）」を策定しています。岩手県では、「岩手県地域公共交通計画（令和5年度策定）」を策定しています。

本計画は、上位計画である「盛岡都市圏地域公共交通計画」「宮古市地域公共交通計画」のアクションプランとして位置付けます。

なお、策定にあたっては上位計画と整合を図ります。

1-3 アクションプランの期間

令和8年度から令和11年度までの4年間とします。

※山田線と106特急・急行バスによる共同経営の実施期間の終期と整合を図ります。

¹ 注）「独占禁止法特例法」第9条第1項＝地域一般乗合旅客自動車運送事業者は、他の地域一般乗合旅客自動車運送事業者又は公共交通事業者（以下「地域一般乗合旅客自動車運送事業者等」と総称する。）との間で、基盤的サービスの提供のために次に掲げる行為を行うことを内容とする共同経営に関する協定の締結を行おうとするときは、当該他の地域一般乗合旅客自動車運送事業者等と共同して、当該協定の締結について国土交通大臣の認可を受けることができる。

第2章 山田線と沿線地域の概要

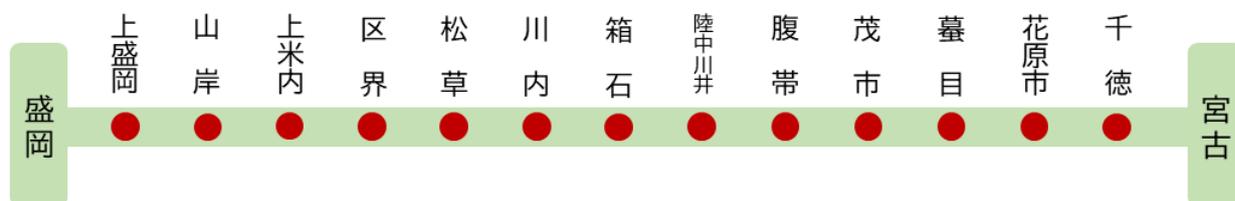
2-1 山田線の概要

(1) 位置等

山田線は、岩手県の県庁所在地である盛岡市の盛岡駅から三陸沿岸地域の宮古市の宮古駅へ至る延長 102.1 km の路線であり、全線が単線の非電化区間となっています。

盛岡駅において東北新幹線、秋田新幹線、東北本線、田沢湖線、IGRいわて銀河鉄道線、宮古駅において三陸鉄道リアス線と接続し、鉄道ネットワークを形成しています。

- ・路線距離（営業キロ） 102.1 km
- ・駅数 15 駅（盛岡市 4 駅、宮古市 11 駅）



【山田線の駅・営業キロ等】

駅名	営業キロ		所在地	接続線路
	駅間	累計		
盛岡	-	0	盛岡市	東北新幹線、秋田新幹線、東北本線、田沢湖線、IGRいわて銀河鉄道線、路線バス
上盛岡	2.8	2.8		
山岸	2.1	4.9		
上米内	5.0	9.9		
区界	25.7	35.6	宮古市	川井地域バス 岩泉茂市線（岩泉線代替バス）、新里地域バス
松草	8.0	43.6		
川内	17.9	61.5		
箱石	4.2	65.7		
陸中川井	7.8	73.5		
腹帯	9.1	82.6		
茂市	4.4	87.0		
臺目	4.5	91.5		
花原市	2.7	94.2		
千徳	4.6	98.8		
宮古	3.3	102.1		

(2) 山田線の沿革

1923年（大正12年）に盛岡～上米内の開業以降、順次路線が延伸され、1934年（昭和9年）には陸中川井～宮古間が開業し、盛岡～宮古間での営業運転が開始されました。1939年（昭和14年）には大槌～釜石間に釜石駅が開業し、全線開業となりました。

その後、昭和 22 年 9 月のアイオン台風など大規模災害等による被災により何度か不通となりましたが、その度に復旧し、運行を再開してきました。旅客はもちろん木材や木炭などの輸送で岩手の近代産業を支える役割も果たしていました。

しかし、2011 年（平成 23 年）に発生した東日本大震災津波により、宮古～釜石間において広範囲にわたって被災し、全線不通となりました。宮古駅～釜石駅間は 2019 年（平成 31 年）3 月に J R 東日本から三陸鉄道に移管され、三陸鉄道リアス線として運行しています。

【主な沿革】

年月日	内容
1923(大正 12)年 10 月	盛岡～上米内間 (9.9 km) 開業
1928(昭和 3)年 9 月	上米内～区界間 (25.7 km) 開業
1930(昭和 5)年 10 月	区界～松草間 (8.0 km) 開業
1931(昭和 6)年 10 月	松草～平津戸間 (8.6 km) 開業
1933(昭和 8)年 11 月	平津戸～陸中川井間 (21.3 km) 開業
1934(昭和 9)年 11 月	陸中川井～宮古間 (28.6 km) 開業
1935(昭和 10)年 11 月	宮古～陸中山山田間 (21.3 km) 開業
1936(昭和 11)年 11 月	陸中山山田～岩手船越間 (5.0 km) 開業
1938(昭和 13)年 4 月	岩手船越～大槌間 (11.6 km) 開業
1939(昭和 14)年 9 月	大槌～釜石間 (12.3 km) 開業
1943(昭和 18)年 11 月	宮古～宮古港間 (2.0 km) 開業
1944(昭和 19)年 3 月	平津戸～川内間の雪崩により鉄橋流出。下り貨物列車が転落。機関士死亡。機関助手負傷。(山田線列車転落事故)
1946(昭和 21)年 11 月	風水害により平津戸～臺目間不通
1947(昭和 22)年 9 月	アイオン台風による災害により松草～臺目間不通
1949(昭和 24)年 3 月	臺目～茂市間運行再開
1953(昭和 28)年 3 月	腹帯～茂市間運行再開
1954(昭和 29)年 11 月	平津戸～腹帯間運行再開 (アイオン台風の被害復旧完了)
1980(昭和 55)年 9 月	集中豪雨による災害により宮古～津軽石間不通
1981(昭和 56)年 1 月	宮古～津軽石間運行再開
1984(昭和 59)年 2 月	宮古～宮古港間貨物船廃止
1986(昭和 61)年 11 月	山田線全線 (盛岡～釜石間) の貨物営業廃止
1987(昭和 62)年 4 月	国鉄廃止、東日本旅客鉄道(株)へ継承
2008(平成 20)年 7 月 24 日	岩手県沿岸北部地震による落石により全線不通
2008(平成 20)年 7 月 25 日	全線運行再開
2011(平成 23)年 3 月 11 日	東日本大震災津波により全線不通
2011(平成 23)年 3 月 18 日	盛岡～上米内間運行再開
2011(平成 23)年 3 月 26 日	上米内～宮古間運行再開
2011(平成 23)年 4 月 8 日	震災の余震により全線不通
2011(平成 23)年 4 月 10 日	盛岡～上米内間運行再開
2011(平成 23)年 4 月 13 日	上米内～宮古間運行再開
2011(平成 23)年 4 月 20 日	宮古～釜石間においてバスによる振替輸送開始
2015(平成 27)年 12 月 11 日	松草～平津戸駅間で発生した土砂流入により一部区間不通
2016(平成 28)年 3 月 26 日	大志田駅、浅岸駅廃止
2017(平成 29)年 11 月 5 日	上米内～川内間運行再開 (土砂流入の復旧完了)
2019(平成 31)年 3 月 23 日	宮古～釜石間が三陸鉄道へ移管
2023(令和 5)年 3 月 18 日	平津戸駅廃止
2024(令和 6)年 8 月 27 日	集中豪雨による災害により全線不通
2024(令和 6)年 9 月 15 日	盛岡～上米内間運行再開
2024(令和 6)年 12 月 20 日	上米内～宮古間運行再開 (集中豪雨の復旧完了)

(3) 運行ダイヤ

山田線の盛岡～宮古の運行は、JR東日本が設立された昭和62年には1日6往復の運行をしていました。その後、利用実態に合わせた減便が行われ、令和7年現在、1日3往復の運行となっています。そのほか、盛岡～上米内や川内～宮古などを区間運行しています。

【上り】 ※令和7年3月15日改正

駅名	普通	普通	普通 休日運休	普通	普通	快速リアス	普通	普通	普通	普通
宮古	—	5:23	—	—	—	9:19	15:54	17:14	18:08	19:34
千徳	—	5:27	—	—	—	9:23	15:58	17:18	18:12	19:38
花原市	—	5:34	—	—	—	レ	16:05	17:25	18:19	19:45
曇目	—	5:39	—	—	—	レ	16:10	17:30	18:24	19:50
茂市	—	5:46	—	—	—	9:41	16:17	17:37	18:31	19:58
腹帯	—	5:54	—	—	—	レ	16:25	17:45	—	20:05
陸中川井	—	6:08	—	—	—	10:03	16:39	18:00	—	20:19
箱石	—	6:20	—	—	—	レ	16:51	18:12	—	20:31
川内	—	6:26	—	—	—	レ	16:58	18:19	—	20:37
松草	—	—	—	—	—	レ	17:24	18:48	—	—
区界	—	—	—	—	—	レ	17:33	18:57	—	—
上米内	7:05	—	7:49	8:31	9:22	11:27	18:06	19:33	—	—
山岸	7:11	—	7:55	8:37	9:28	11:33	18:13	19:39	—	—
上盛岡	7:15	—	7:59	8:41	9:32	11:37	18:16	19:43	—	—
盛岡	7:20	—	8:03	8:46	9:37	11:41	18:21	19:48	—	—

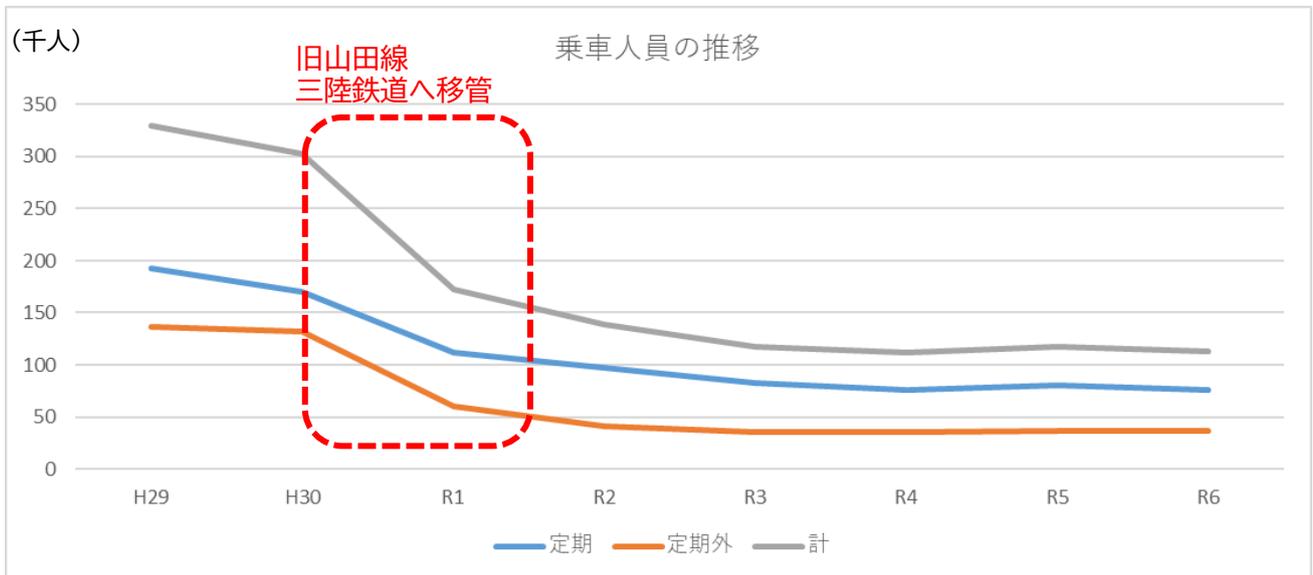
【下り】 ※令和7年3月15日改正

駅名	普通	普通	普通 休日運休	普通	快速リアス	快速リアス	普通	普通	普通
盛岡	—	6:32	7:29	8:09	11:09	13:12	—	17:46	20:05
上盛岡	—	6:36	7:33	8:14	11:13	13:16	—	17:50	20:09
山岸	—	6:40	7:37	8:17	11:17	13:20	—	17:54	20:13
上米内	—	6:46	7:43	8:23	11:27	13:26	—	18:01	20:19
区界	—	7:22	—	—	レ	レ	—	—	—
松草	—	7:30	—	—	レ	レ	—	—	—
川内	6:32	7:57	—	—	レ	レ	—	—	—
箱石	6:38	8:04	—	—	レ	レ	—	—	—
陸中川井	6:50	8:16	—	—	12:49	14:50	—	—	—
腹帯	7:04	8:30	—	—	レ	レ	—	—	—
茂市	7:12	8:37	—	—	13:09	15:10	18:37	—	—
曇目	7:19	8:44	—	—	レ	レ	18:44	—	—
花原市	7:25	8:49	—	—	レ	レ	18:49	—	—
千徳	7:32	8:57	—	—	13:26	15:27	18:56	—	—
宮古	7:36	9:01	—	—	13:30	15:31	19:00	—	—

(4) 利用状況

①乗車人員

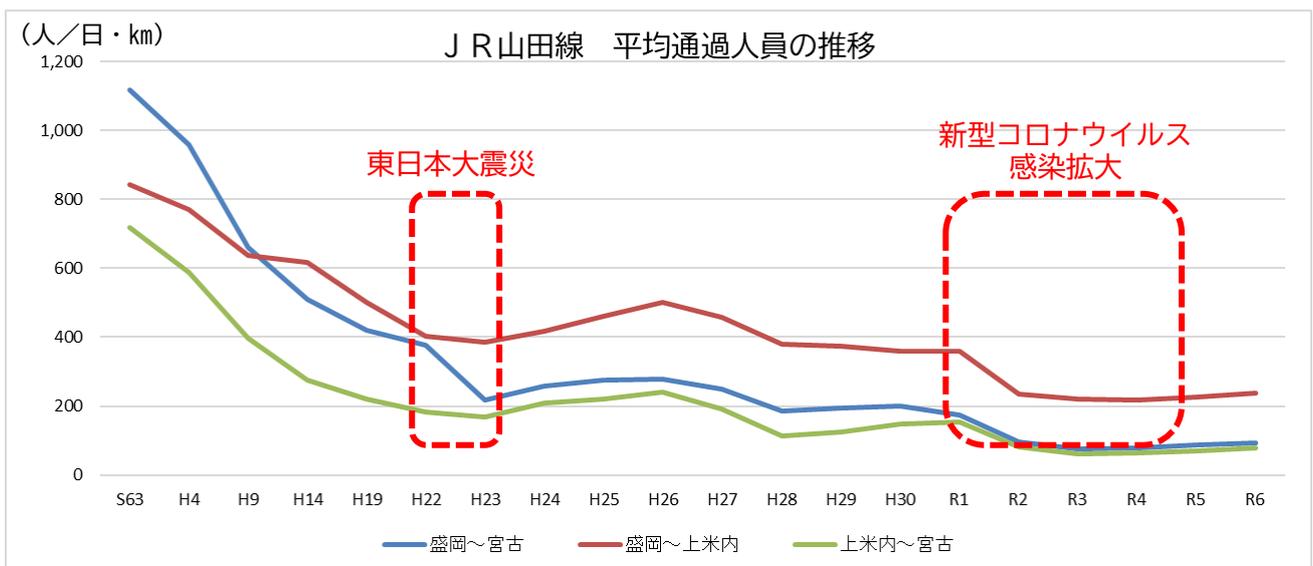
山田線の乗車人員は、低迷しています。近年、旧山田線（宮古～釜石間）移管や新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減少しています。新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行した後も、乗車人員は回復していません。



②平均通過人員

山田線の平均通過人員（※）は、減少傾向にあり、特に平成4年から平成9年にかけて大きく減少しています。

※平均通過人員：1日1キロメートルあたりの利用者数



2-2 山田線を取り巻く環境の変化

(1) 沿線環境の変化

①人口の推移

盛岡市と宮古市の地区別人口は、全体的に減少傾向にあり、特に、宮古市の減少が顕著となっています。

人口の推移

	H 1 2	H 1 7	H 2 2	H 2 7	R 2
旧盛岡市域	288,843 人	287,192 人	285,042 人	285,480 人	278,398 人
旧玉山村域	14,014 人	13,554 人	13,004 人	12,151 人	11,333 人
旧宮古市域	54,638 人	52,212 人	49,145 人	48,051 人	43,162 人
旧田老町域	4,800 人	4,574 人	4,302 人	3,172 人	2,729 人
旧新里村域	3,785 人	3,464 人	3,073 人	2,852 人	2,419 人
旧川井村域	3,763 人	3,338 人	2,910 人	2,601 人	2,059 人
合計	369,843 人	364,334 人	357,476 人	354,307 人	340,100 人

資料：国勢調査

人口の推移

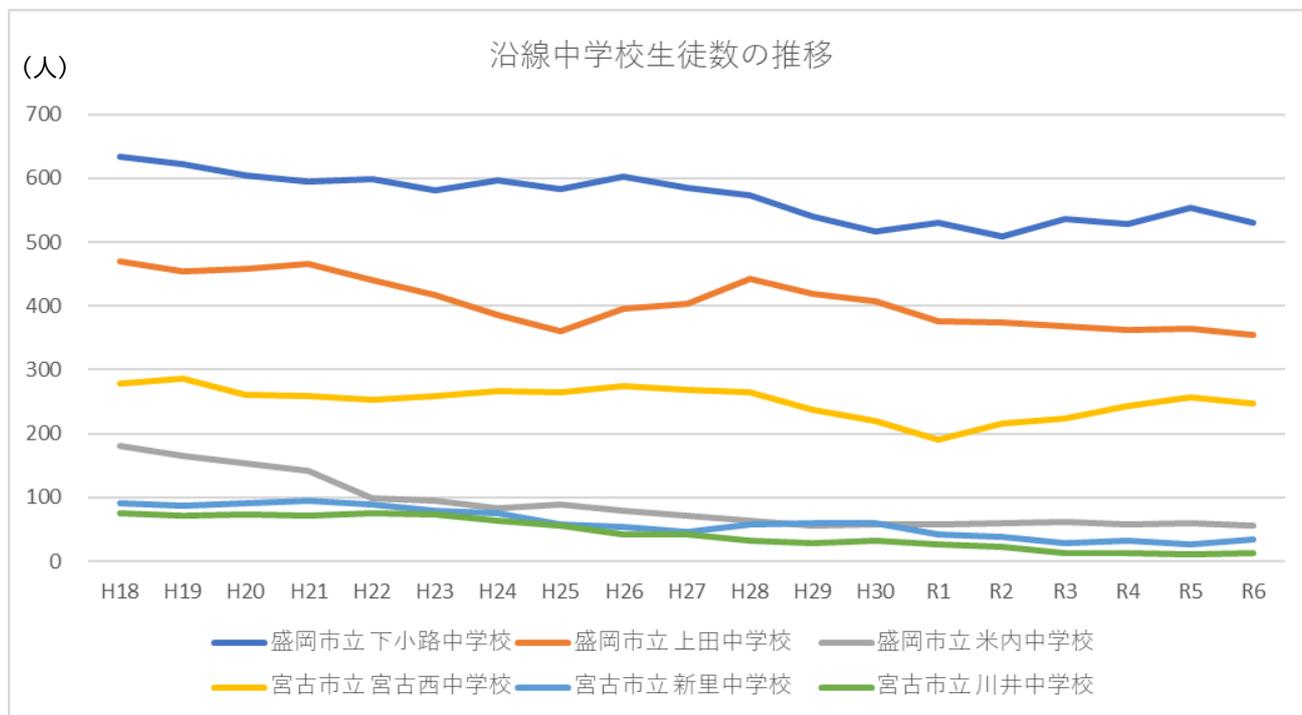
	R 3	R 4	R 5	R 6
旧盛岡市域	274,379 人	272,468 人	269,964 人	267,202 人
旧玉山村域	11,301 人	11,098 人	10,887 人	10,757 人
旧宮古市域	41,885 人	41,183 人	40,237 人	39,327 人
旧田老町域	2,755 人	2,705 人	2,611 人	2,524 人
旧新里村域	2,380 人	2,326 人	2,243 人	2,177 人
旧川井村域	2,056 人	2,021 人	1,942 人	1,852 人
合計	334,756 人	331,801 人	327,884 人	323,839 人

資料：住民基本台帳

②沿線中学校生徒数の推移

山田線沿線の中学生は減少しています。沿線中学校の生徒数は、平成18年度は1,730人、令和5年度は1,272人で、458人の減少となっています。

なお、中学生は高校進学後に山田線を通学手段として利用する可能性があるため、沿線中学校生徒数の推移は、通学需要を見据えた施策検討において重要です。

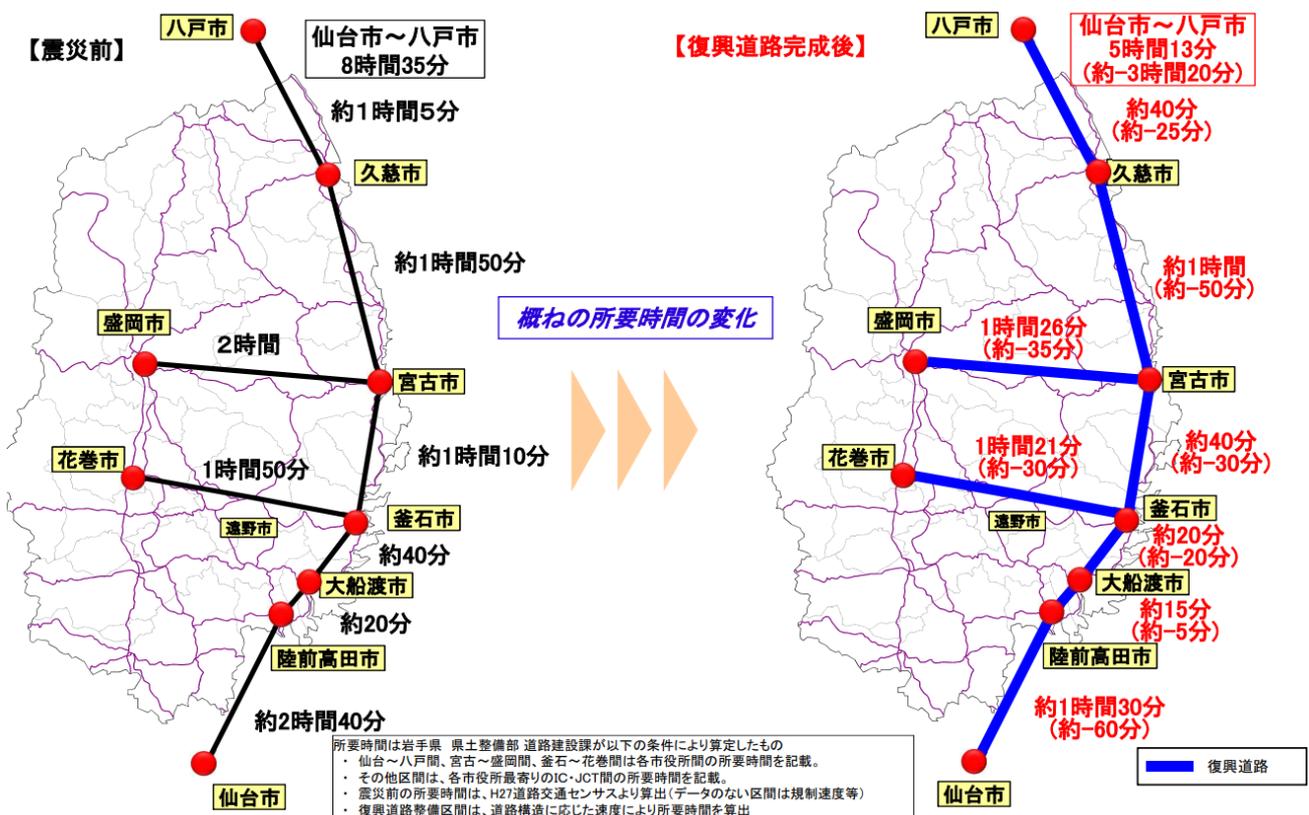


③交通手段の推移

令和3年度に実施された全国都市交通特性調査の結果によると、盛岡市（平日）における代表交通手段別分担率は、自動車（運転）と（同乗）を合わせると60.3%であり、休日は76.1%とさらに高くなります。また、平成27年度の調査では、平日が52.4%、休日が72.0%であることから、自動車を利用する人の割合が前回調査より増加しています。

一方、鉄道の利用者は、令和3年度の調査では、平日が1.8%、休日が0.8%にとどまっています。また、平成27年度の調査では、平日が2.9%、休日が2.1%であり、鉄道を利用する人の割合は、前回調査より低くなっています。

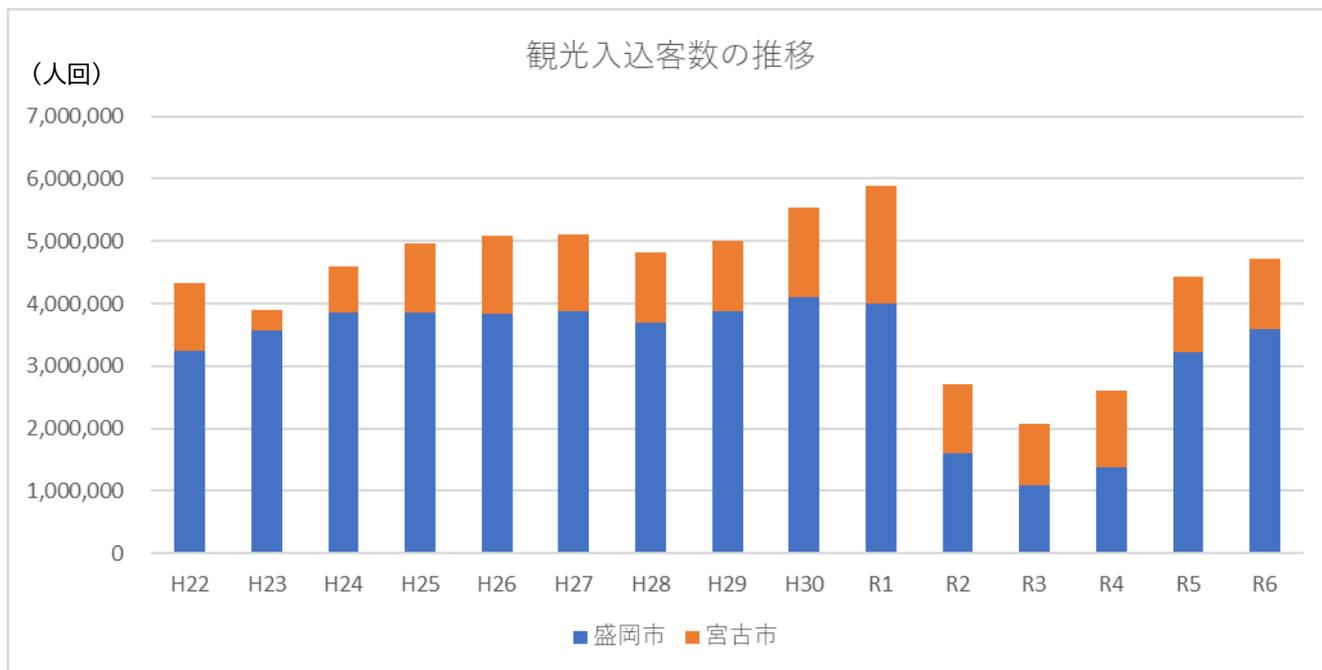
また、宮古盛岡横断道路の開通により、盛岡～宮古の所要時間は約2時間から約1時間26分と大幅に短縮されました。



出典：岩手県ホームページ

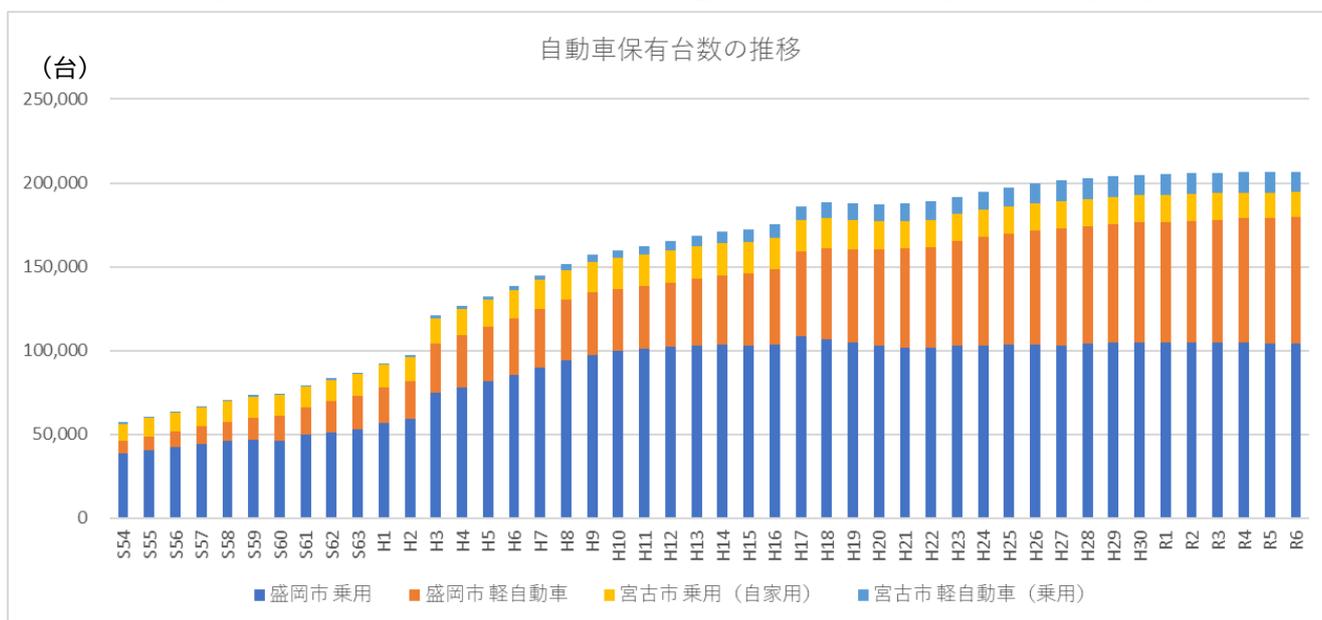
④観光入込客数の推移

盛岡市と宮古市の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年に大きく減少しました。その後、回復傾向にあるものの、コロナ前である令和元年の水準までは戻りきっていません。



⑤自動車保有台数の推移

自動車保有台数は、平成27年に20万台を超え、それ以降は横ばい傾向にあります。



第3章 山田線利用実態調査から見る利用実態とニーズ

3-1 調査の概要

(1) 調査の目的

宮古市～盛岡市間の公共交通の利用実態を把握するために、山田線及び106特急・急行バスを対象に利用実態調査を行いました。

(2) 調査日時

調査は、令和7年6月～7月の平日2回、休日2回の以下の日程で実施しました。

	調査日	平日休日	概要
繁忙期	6月25日(水)	平日	・JR東日本が実施する「大人の休日倶楽部パス」の期間(6/23～7/5)を繁忙期に設定した。
	6月28日(土)	休日	
通常期	7月9日(水)	平日	・上記以外
	7月12日(日)	休日	

(3) 調査項目

①利用実態調査(カウント調査)

対象	概要
山田線 盛岡駅⇔宮古駅の乗客	<ul style="list-style-type: none"> ・調査員が列車に乗り込み、目視による全数調査(利用状況のカウント調査、利用者属性等の傾向を探る観察調査) ・1便につき1名配置、平日1日あたり5人日を配置(アンケート調査兼務)
106特急・急行バス 盛岡駅前⇔宮古駅前の乗客	<ul style="list-style-type: none"> ・調査員がバスに乗り込み、目視による全数調査(利用状況のカウント調査、利用者属性等の傾向を探る観察調査) ・1便につき1名配置、平日1日あたり5人日を配置(アンケート調査兼務)

②アンケート調査

対象	概要
山田線 盛岡駅⇔宮古駅の乗客	<ul style="list-style-type: none"> ・調査員が列車に乗り込み、利用者へアンケート配布を実施 ・1便につき1名配置、平日1日あたり5人日を配置(カウント調査兼務)
106特急・急行バス 盛岡駅前⇔宮古駅前の乗客	<ul style="list-style-type: none"> ・調査員がバスに乗り込み、利用者へアンケート配布を実施 ・1便につき1名配置、平日1日あたり5人日を配置(カウント調査兼務)

(4) 調査区間・調査箇所

○山田線：宮古駅(宮古市)～盛岡駅(盛岡市)区間(15駅)

○106特急・急行バス：宮古駅前(宮古市)～盛岡駅前(盛岡市)区間(16バス停)

3-2 調査の結果

(1) 利用実態調査（カウント調査）

① 属性別乗降者数について

- ・ 鉄道の利用者数（4日合計）は1,465人、バスの利用者数（4日合計）は1,739人であり、繁忙期と通常期を比較すると、鉄道は1.7倍、バスは1.4倍に増加しています。
- ・ 特に繁忙期の鉄道（休日）では、「大人の休日倶楽部パス」を利用した旅行者が大幅に増加しており、通常期の休日と比べて8倍に達しています。

【山田線の乗降者数（人）】

調査日		学生	社会人	旅行者	外国人	合計	2日計
繁忙期	6月25日(水)	112	276	91	0	479	922
	6月28日(土)	9	237	192	5	443	
通常期	7月9日(水)	86	230	20	2	338	543
	7月12日(土)	30	145	24	6	205	
合計		237	888	327	13	1,465	—

1.7倍

※山田線は、6月28日(土)早朝の倒木により6時32分盛岡発宮古行の便が上米内止まりとなり、9時19分発宮古発盛岡行の便が運休しました。また、6月28日(土)に8時51分盛岡発宮古行、13時32分宮古発盛岡行の「さんりくトレイン宮古号」が臨時運行しています。

【106特急・急行バスの乗降者数（人）】

調査日		学生	社会人	旅行者	外国人	合計	2日計
繁忙期	6月25日(水)	19	285	176	0	480	1,004
	6月28日(土)	3	207	294	20	524	
通常期	7月9日(水)	18	492	62	7	369	735
	7月12日(土)	4	282	155	15	366	
合計		44	966	687	42	1,739	—

1.4倍

②区間別乗車人員

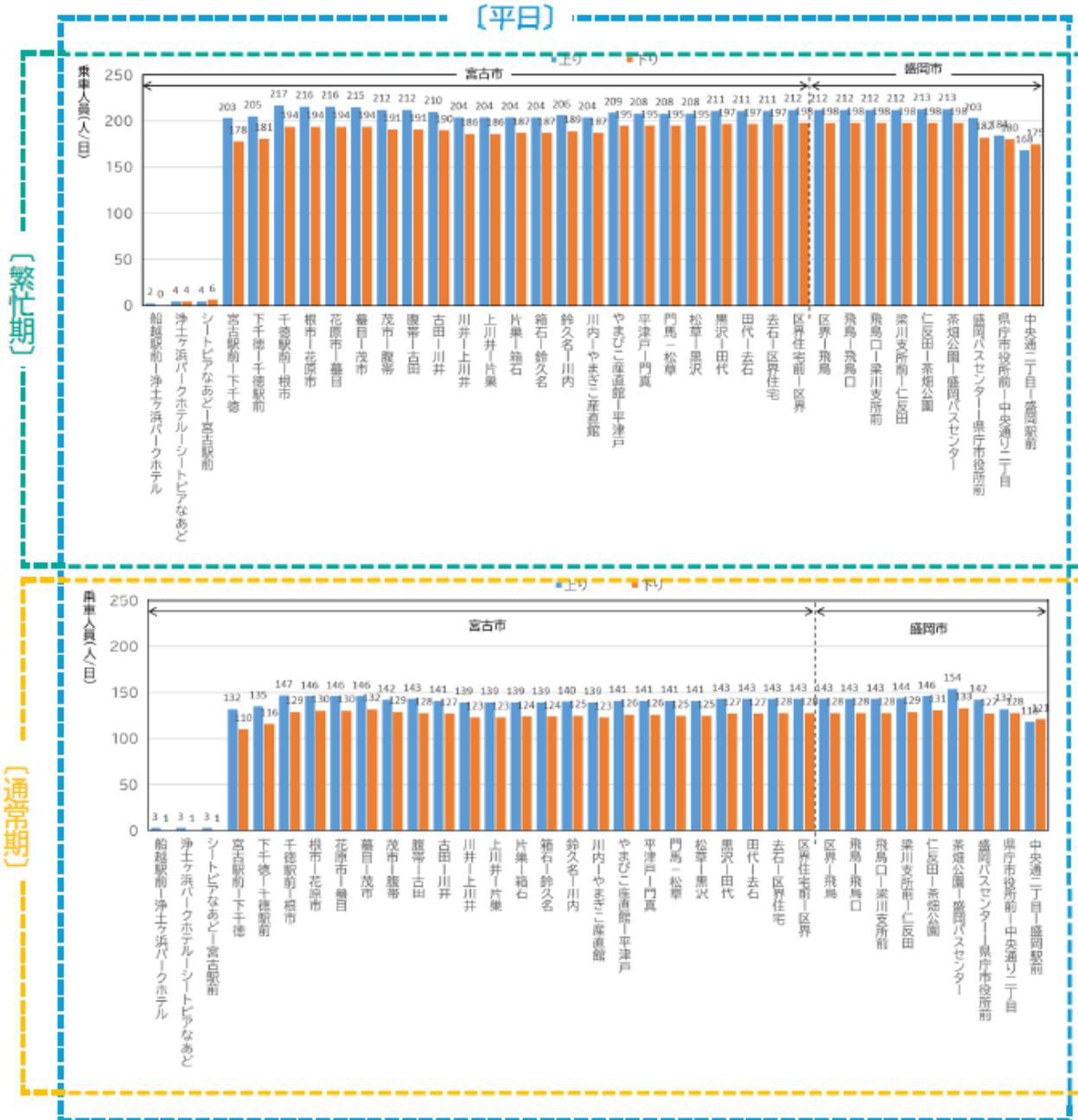
【山田線】

- ・ 平日の乗車人員は、「茂市～区界」の区間で減少しており、休日と比較して「茂市」や「盛岡～上米内」の区間での乗降が多く、乗車人員の変動がみられます。
- ・ 休日は、比較的「宮古～盛岡」で乗車人員の変動が少なく、長距離の利用客が多いことが想定されます。
- ・ 繁忙期の休日において、早朝から倒木の影響で「宮古～上米内間」で運休があったため、上りの乗車人員が下りに比べて減少しています。



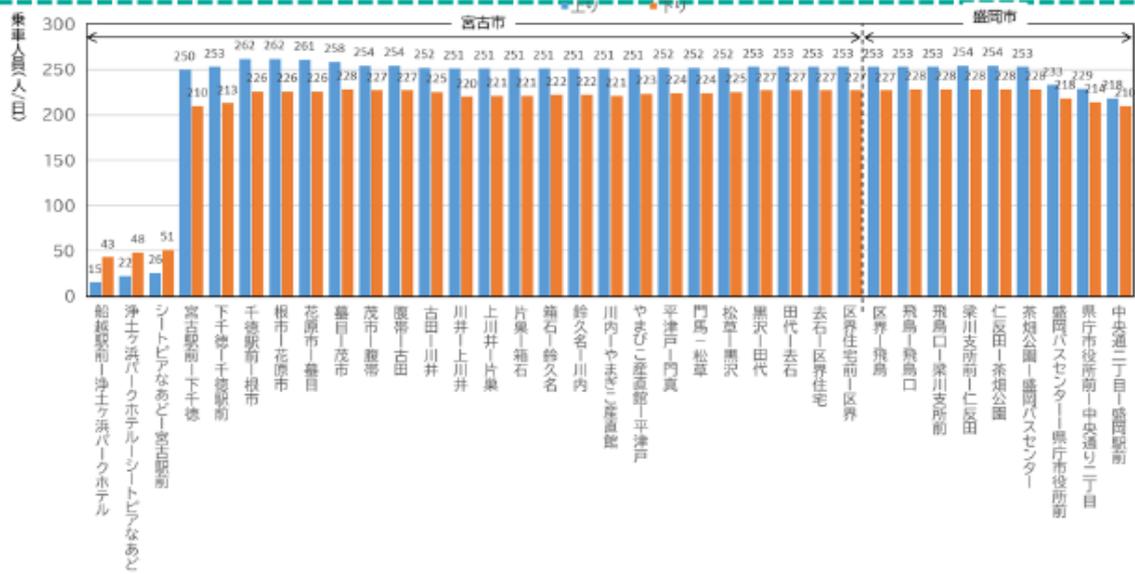
【106 特急・急行バス】

- ・バスの乗車人員は、盛岡市内の「盛岡バスセンター～盛岡駅前」の区間で変動がみられるものの、「宮古駅前～盛岡駅前」の区間での利用が多くみられます。
- ・繁忙期休日では、山田線が早朝に運休していたため、上りは乗車人員が増加したと想定されます。

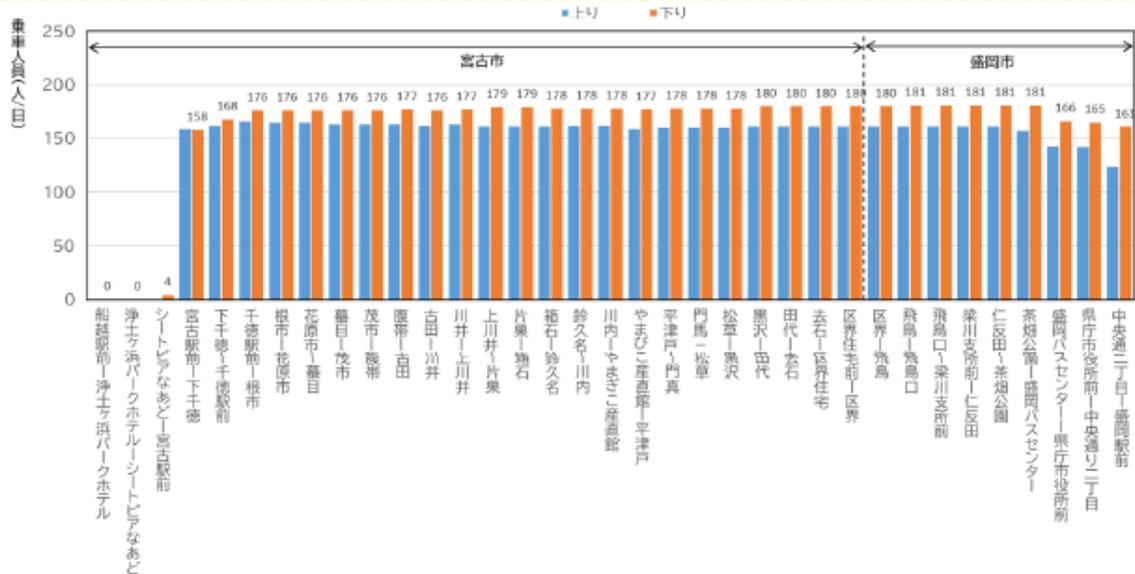


[休日]

[繁忙期]



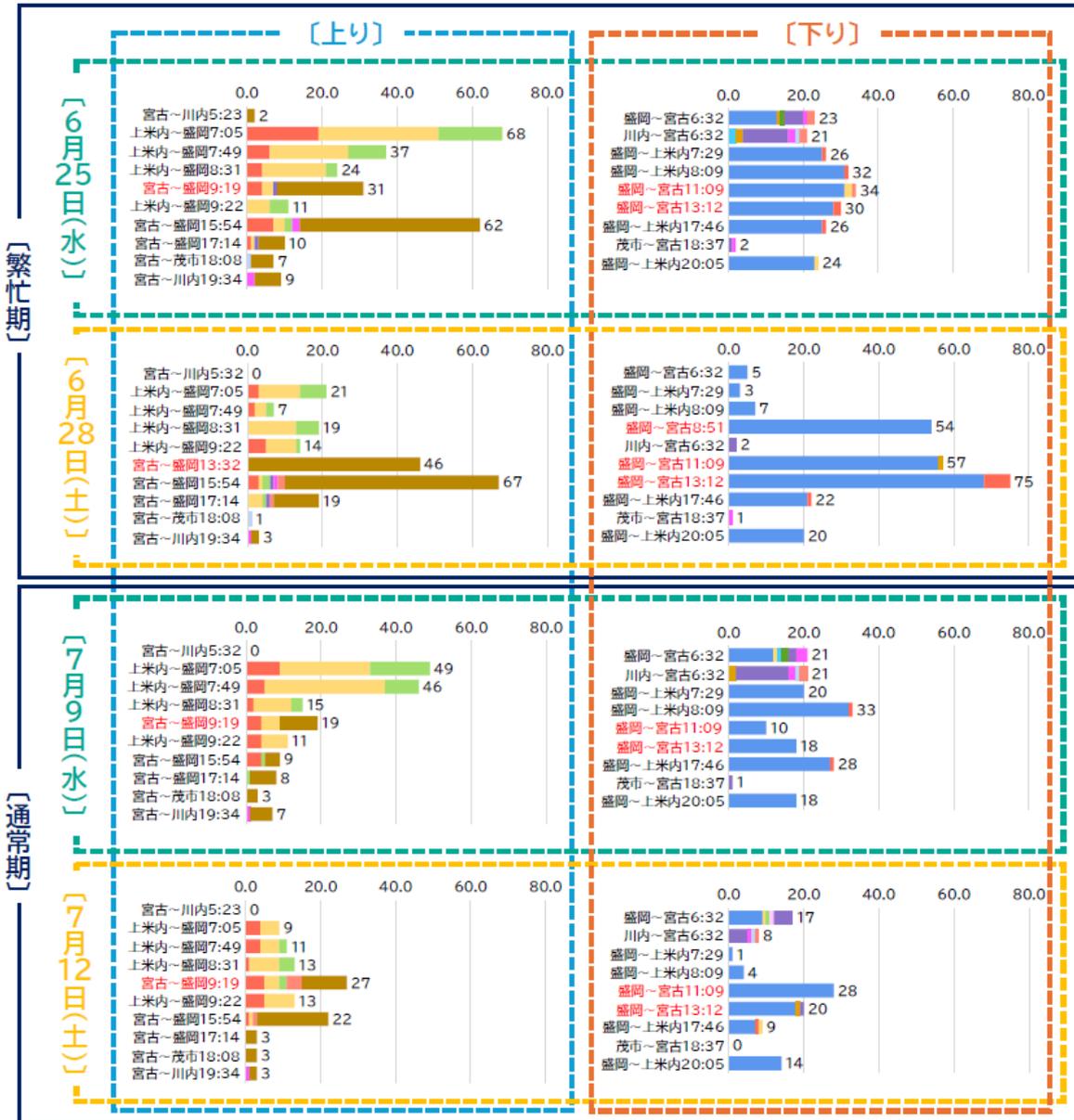
[通常期]



③運行便別乗車人員

【山田線】

- ・上りは、6月25日(水)の上米内～盛岡間 7:05 発が 68 人と最も多く、次いで6月28日(土)の宮古～盛岡間 15:54 発が 67 人でした。
- ・下りは、6月28日(土)の盛岡～宮古間 13:12 発が 75 人と最も多く、次いで6月28日(土)の盛岡～宮古間 11:09 発が 57 人でした。

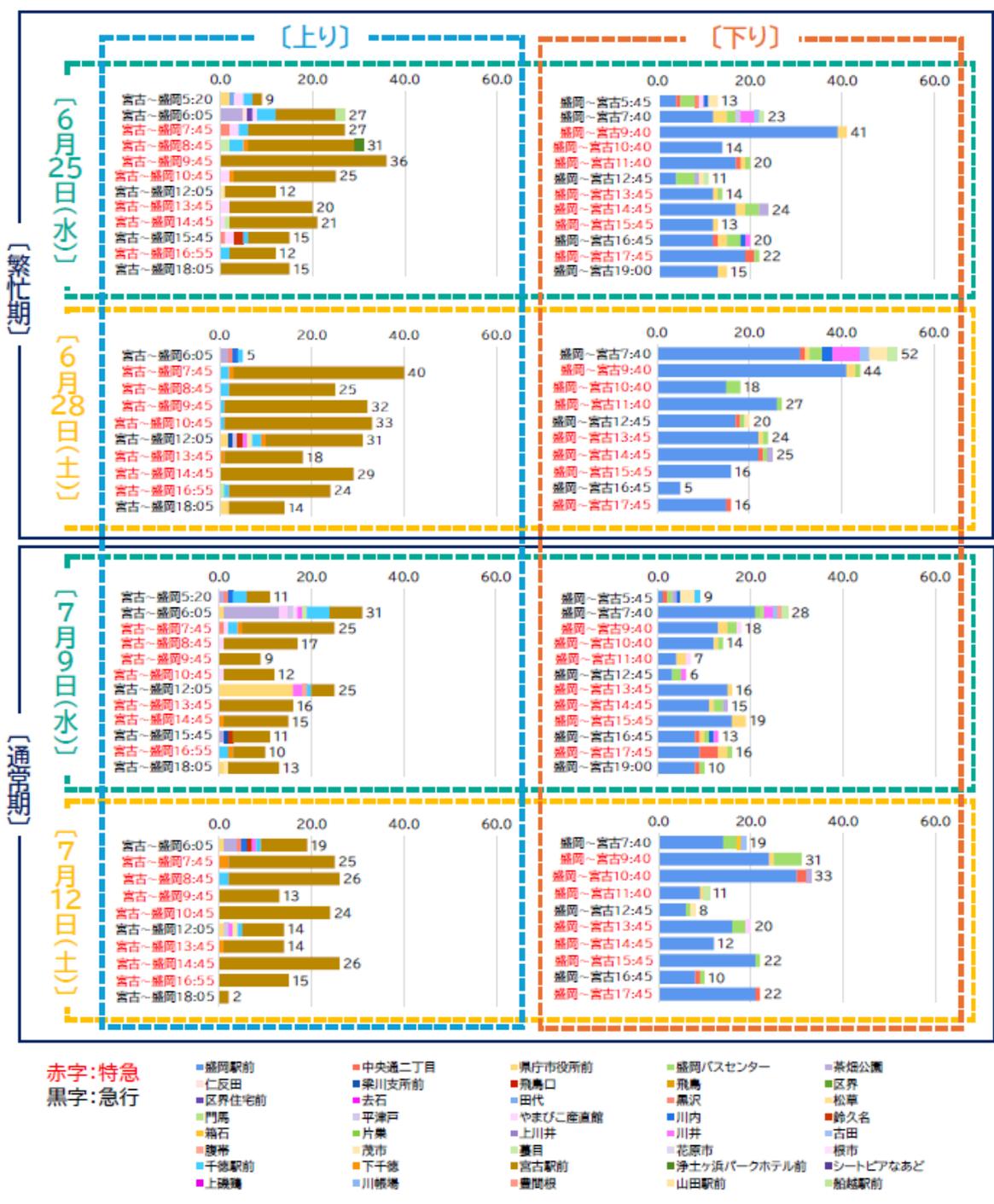


赤字:快速
黒字:普通

- 盛岡駅
- 川内駅
- 花原市駅
- 上盛岡駅
- 箱石駅
- 千徳駅
- 山岸駅
- 陸中川井駅
- 宮古駅
- 上米内駅
- 腹帯駅
- 区界駅
- 茂市駅
- 松草駅
- 曇目駅

【106 特急・急行バス】

- ・上りは、6月28日(土)の宮古～盛岡間 7:45 発が 40 人と最も多く、次いで6月25日(水)の宮古～盛岡間 9:45 発が 36 人でした。
- ・下りは、6月28日(土)の盛岡～宮古間 7:40 発が 52 人と最も多く、次いで6月28日(土)の盛岡～宮古間 9:40 発が 44 人でした。



(2) アンケート調査

①回収状況

- ・山田線のアンケート回収数は合計 1,056 枚、106 特急・急行バスのアンケート回収数は合計 1,032 枚でした。
- ・カウント調査による乗降数より抽出率を算出すると、山田線は 72.1%、106 特急・急行バスは 59.3%となっています。

		山田線			106 特急・急行バス		
		回収数	乗降数	抽出率	回収数	乗降数	抽出率
繁忙期	6月25日(水)	319	479	66.6%	269	480	56.0%
	6月28日(土)	383	443	86.5%	268	524	51.1%
通常期	7月9日(水)	134	338	39.6%	209	369	56.6%
	7月12日(土)	141	205	68.8%	226	366	61.7%
Web 回答		79	—		60	—	
合計 (紙+web)		1,056	1,465	72.1%	1,032	1,739	59.3%

②回答者属性

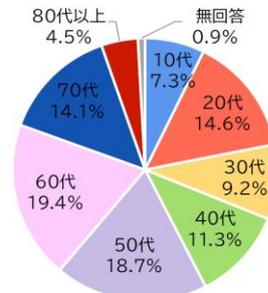
ア 年齢

- ・鉄道とバスの両方とも「60代」が最も多くなっていますが、30代未満の回答が3割以上であることから、幅広い年代から回答が得られています。

【山田線】



【106 特急・急行バス】



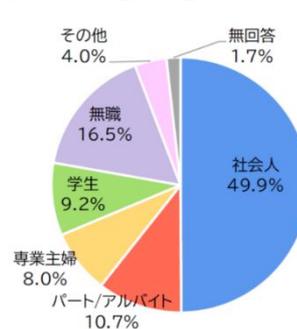
イ 職業

- ・鉄道とバスの両方とも「社会人」が最も多く、約半数を占めています。鉄道は通学利用の「学生」が 20.7% で 2 番目に多く、バスは「無職」が 16.5% で 2 番目に多くなっています。

【山田線】



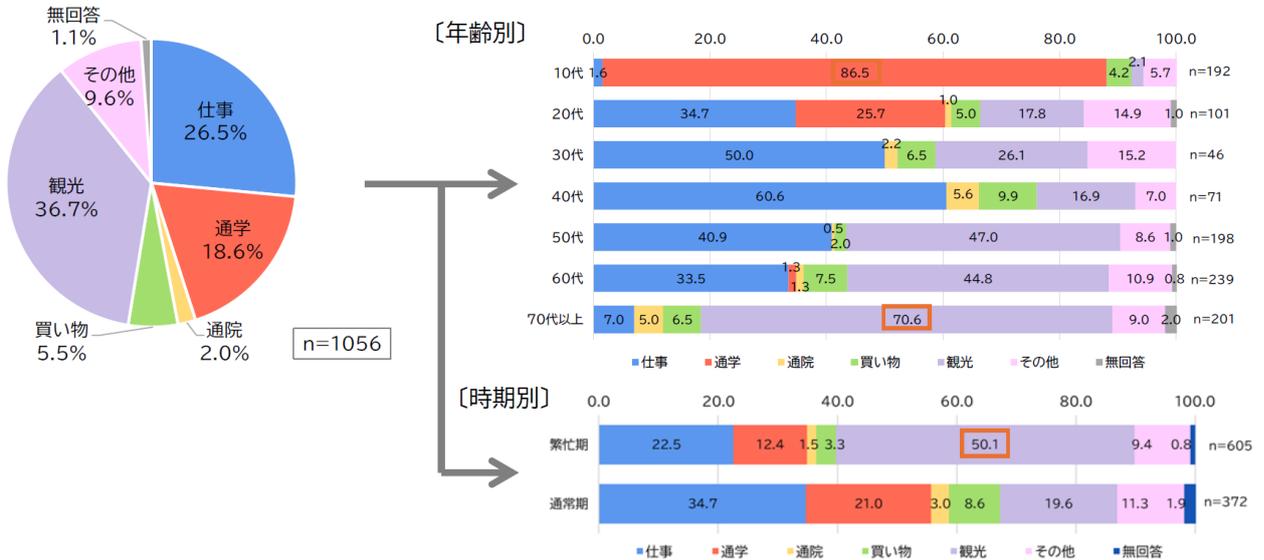
【106 特急・急行バス】



③利用目的

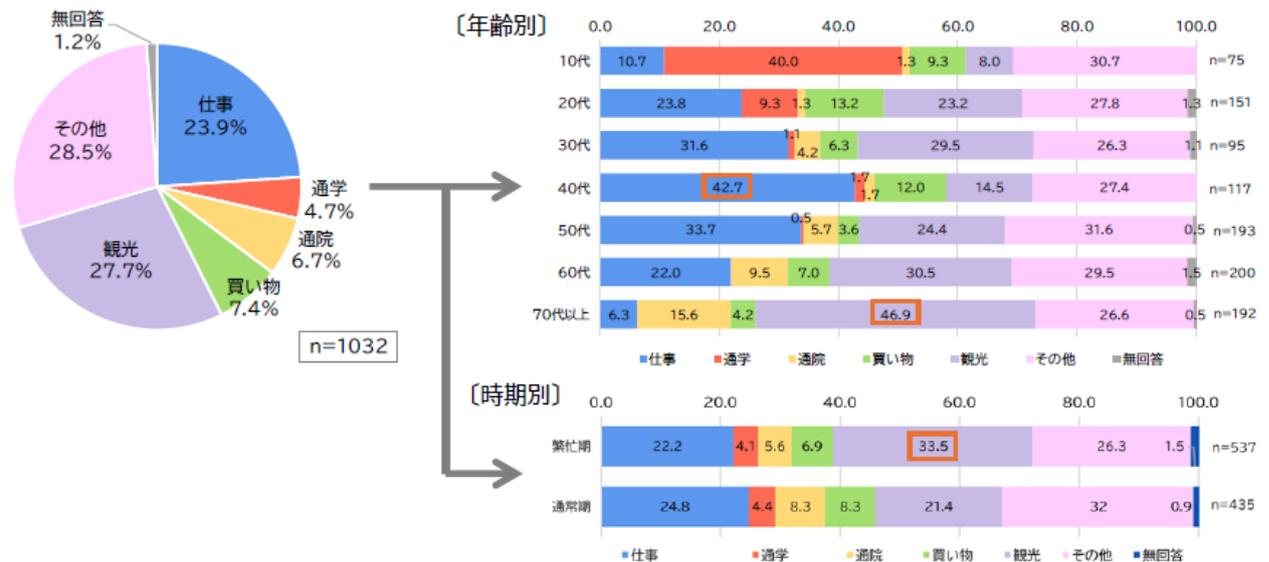
【山田線】

- ・「観光」が36.7%と最も多く、次いで「仕事」が26.5%でした。
- ・年齢別では、10代は「通学」が86.5%で最も多く、70代以上は「観光」が70.6%で最も多くなっています。
- ・時期別では、繁忙期の「観光」が50.1%と最も多い結果となりました。



【106 特急・急行バス】

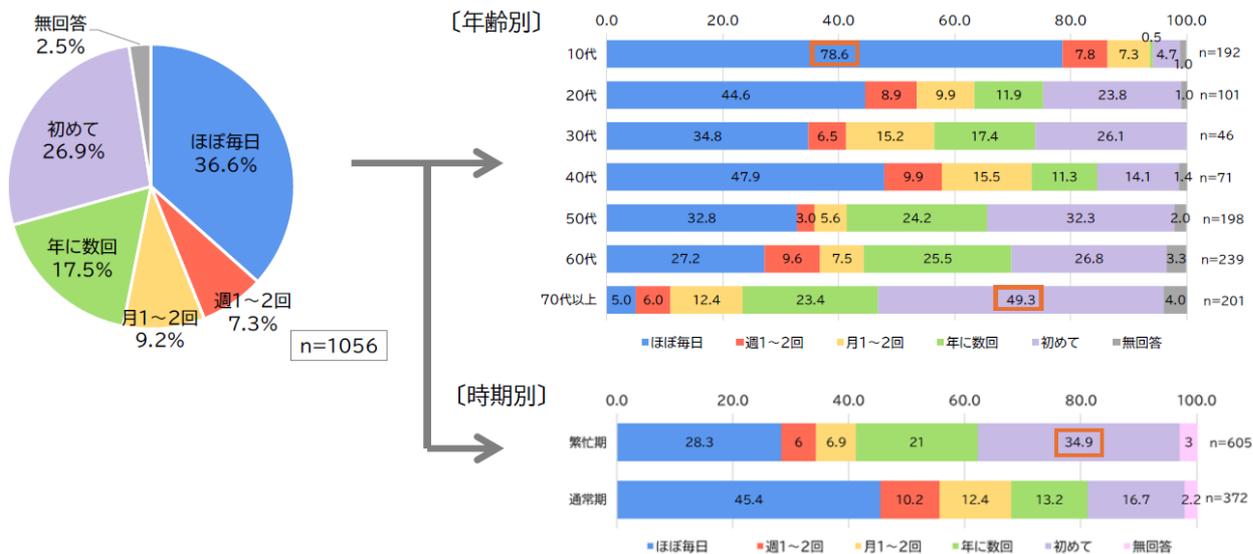
- ・「その他」が28.5%と最も多く、次いで「観光」が27.7%でした。
- ・年齢別では、70代以上は「観光」が46.9%で最も多く、40代は「仕事」が42.7%で最も多くなっています。
- ・時期別では、繁忙期の「観光」が33.5%と最も多い結果となりました。



④利用頻度

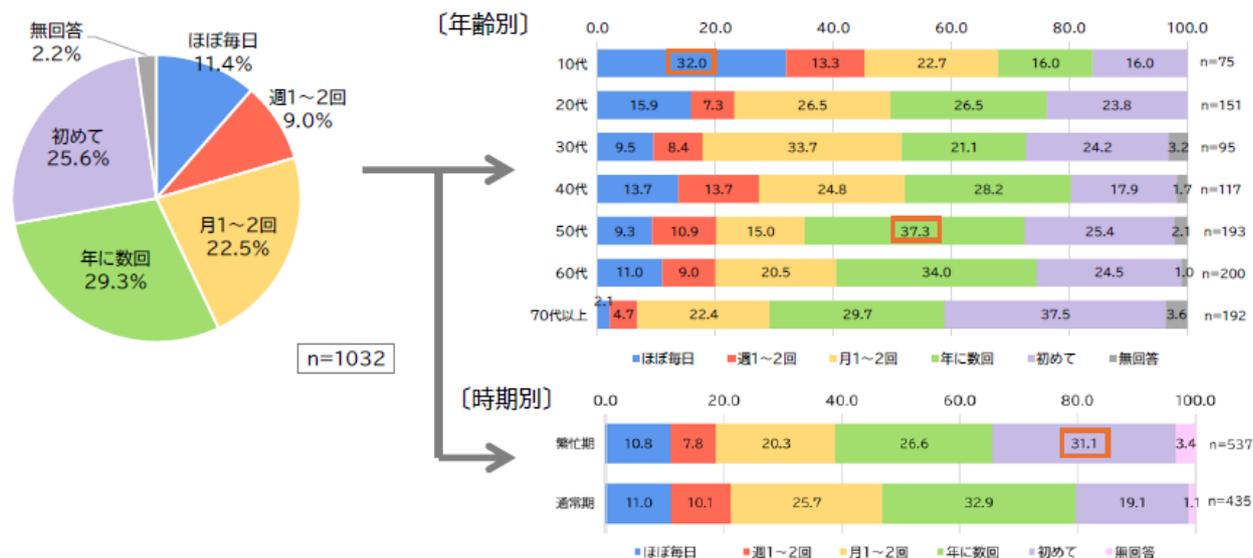
【山田線】

- ・「ほぼ毎日」が36.6%と最も多く、次いで「初めて」が26.9%でした。
- ・年齢別では、10代の「ほぼ毎日」が78.6%で最も多く、70代以上は「初めて」が49.3%で最も多くなっています。
- ・時期別では、繁忙期の「初めて」が34.9%と最も多い結果となりました。



【106 特急・急行バス】

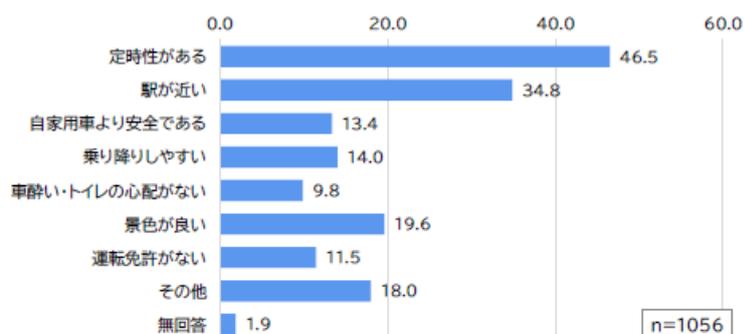
- ・「年に数回」が29.3%と最も多く、次いで「初めて」が25.6%でした。
- ・年齢別では、10代の「ほぼ毎日」が32.0%で最も多く、50代は「年に数回」が37.3%で最も多くなっています。
- ・時期別では、繁忙期の「初めて」が31.1%と最も多い結果となりました。



⑤利用する理由

【山田線】

- ・「定時性がある」が46.5%と最も多く、次いで「駅が近い」が34.8%でした。
- ・「その他」では、「鉄道が好きだから」や「大人の休日倶楽部パスを利用」、「鉄道が便利だから」などの意見がありました。

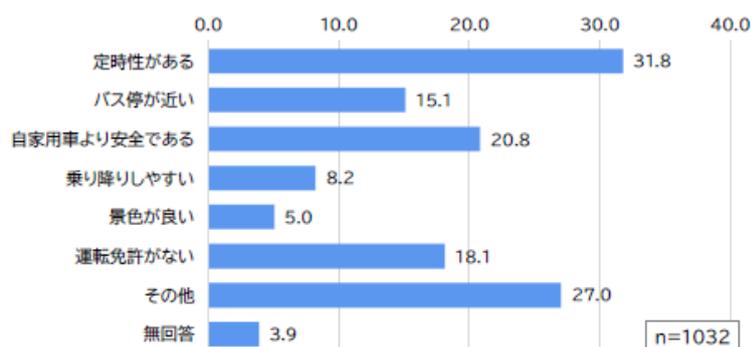


(その他) 主な意見

鉄道が好きだから	38人
大人の休日倶楽部パスを利用	27人
鉄道が便利だから	24人
安いから	19人
観光目的のため	12人
自動車を利用できないため	7人
ゆったりできる	7人
他に手段がないから	5人
楽だから	4人
盛岡駅周辺の駐車場が高い	3人

【106 特急・急行バス】

- ・「定時性がある」が31.8%と最も多く、次いで「その他」が27.0%、「自家用車より安全である」が20.8%でした。
- ・「その他」では、「バスが便利だから」や「他に手段がないから」などの意見がありました。



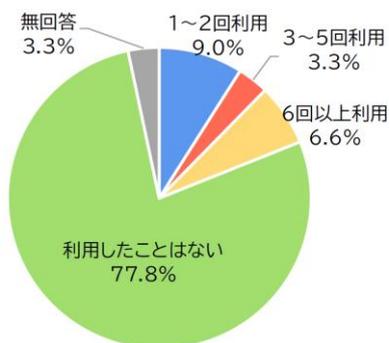
(その他) 主な意見

バスが便利だから	42人
他に手段がないから	35人
自動車を利用できないため	30人
鉄道が不便だから	29人
鉄道が運休のため	18人
仕事のため	10人
安いから	10人
運転しなくてよいから	7人
通学のため	6人
公共交通利用	6人

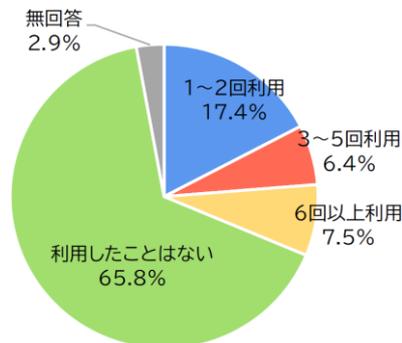
⑥山田線と 106 特急・急行バスの共同経営

- ・ JR 東日本盛岡支社と岩手県北自動車は、山田線盛岡駅～宮古駅間（上盛岡駅、山岸駅、上米内駅を除く）を有効区間とする JR の乗車券類で 106 特急・急行バスを利用できる制度を実施しています。
- ・ アンケートでは、この制度を知っている人は約半数程度の結果となりました。
- ・ 利用回数は、山田線の利用者アンケートでは、「利用したことはない」が 77.8%と最も多く、次いで「1～2回利用」が 9.0%でした。106 特急・急行バスの利用者アンケートでは、「利用したことはない」が 65.8%と最も多く、次いで「1～2回利用」が 17.4%でした。
- ・ 利用したことがある人のうち、「満足」「やや満足」と回答した人は、約 9 割に達しています。
- ・ 切符の相互利用により、山田線または 106 特急・急行バスの「利用頻度が増加した」との回答が、一定数寄せられました。

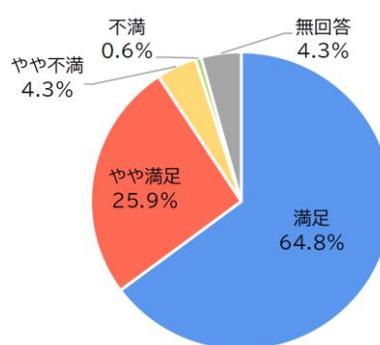
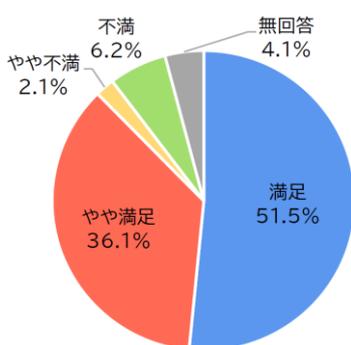
【山田線】



【106 特急・急行バス】



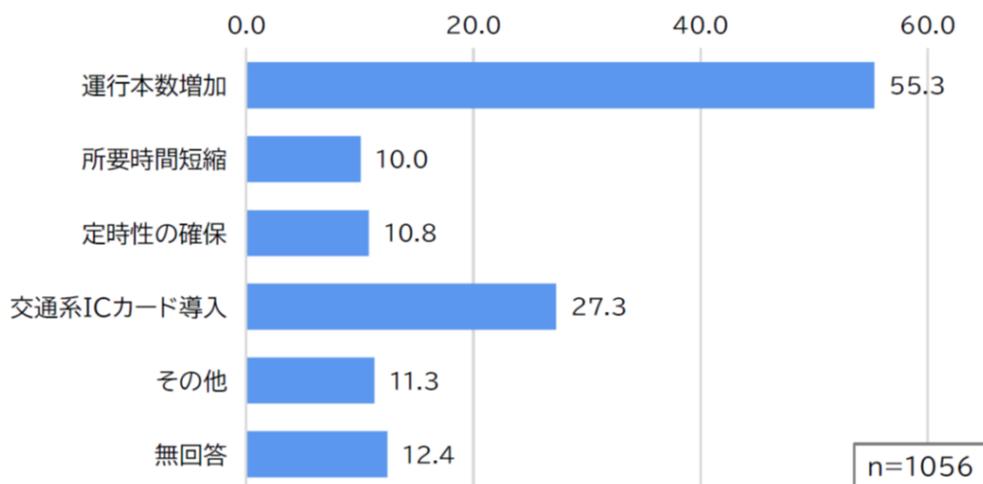
↓ 利用したことがある人のみ回答 ↓



⑦改善要望

【山田線】

- ・「運行本数の増加」が55.3%と最も多く、次いで「交通系 IC カードの導入」が27.3%でした。
- ・その他では、「増便」に関する意見が多いものの、「存続してほしい」や「観光列車の復活」などの意見がありました。
- ・また、自由記述の設問では、「他路線との接続の改善」や「観光資源の有効活用」などの意見が寄せられました。

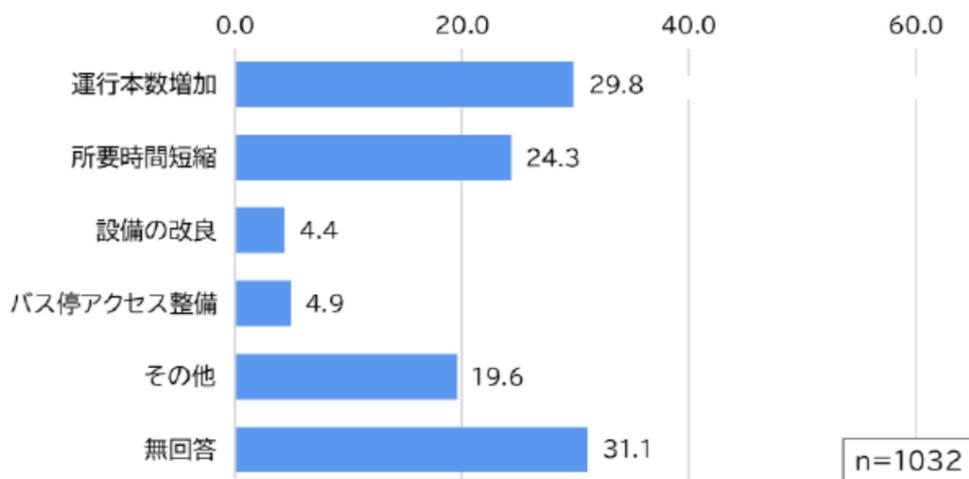


(その他の主な意見)

増便	41人	観光列車の復活	7人
特になし	22人	車内環境の改善	4人
存続してほしい	9人	指定席の導入	2人
初めてなのでわからない	8人	天候等による連休	2人
他の鉄道との乗り継ぎ	7人	フリーパスの利用	2人

【106 特急・急行バス】

- ・「運行本数の増加」が29.8%と最も多く、次いで「所要時間の短縮」が24.3%でした。
- ・「その他」では、朝早い時間帯の「特急の増便」や充電用のコンセントの設置、トイレ設置等に関する「車内環境の改善」などの意見がありました。



(その他の主な意見)

特になし	83人	ICカード対応	3人
特急の増便(朝)	42人	事前予約の対応	3人
車内環境の改善	21人	JR切符相互利用の周知	1人
駐車場の増加	13人	乗車体験の実施	1人
鉄道との乗り継ぎ	8人	安全性の維持	1人

3-3 考察

本調査は、山田線と、106 特急・急行バスを対象に実施しました。その結果を踏まえ、今後の利用促進に向けた課題と改善の方向性を整理します。

(1) 運行本数と特急便の拡充

- ・通勤・通学時間帯の利便性向上のため、朝夕の増便と特急便の導入が求められています。
- ・山田線は、盛岡駅から上米内駅間での増便要望が見られます。
- ・106 特急・急行バスは、運行本数の増加と所要時間の短縮に関する要望が多い傾向にあります。特に、「朝の特急を増やしてほしい」や「夕方の特急便を増やしてほしい」といった声が多く、時間帯に応じた柔軟な運行体制が必要です。

(2) 利便性向上のための乗車環境やサービスの改善

- ・山田線は、IC カード導入による乗車手続きの簡素化と利便性の向上が期待されています。
- ・106 特急・急行バスは、宮古駅～盛岡駅間の長距離移動者や高齢者への配慮として、バス車両へのトイレ設置や休憩時間の延長、充電用コンセントの設置など快適な乗車環境が求められています。

(3) 運賃制度の見直しと共有パスの導入

- ・運賃の見直しや割引制度の導入により、経済的負担を軽減し利用者の増加を図ることが求められています。
- ・「料金を安くしてほしい」「JR とバスの切符を一緒に利用できるようにしてほしい」といった要望があり、「大人の休日倶楽部パス」に対する好意的な意見が多かったことから、観光パスの共通化や定期券の割引連携などが有効であると考えられます。

(4) 乗換拠点での接続性強化

- ・乗降客の多い盛岡駅・宮古駅などの乗換拠点において、山田線と 106 特急・急行バスのダイヤ調整による接続性向上が不可欠です。
- ・乗換案内の多言語対応や視認性の高いサイン整備により、初めて利用する観光客などでも安心して乗換できる環境を整えることが重要となります。

(5) 山田線と 106 特急・急行バスの共同経営の普及

- ・切符の相互利用の制度を知っている人は利用者の約半数程度ですが、利用したことがある人の満足度は高く、山田線または 106 特急・急行バスの利用頻度が増えたとの回答が一定程度あります。
- ・さらに切符の相互利用を促進し乗車機会を増やすためには、現在の認知媒体が「駅の案内」や「チラシ・ポスター」が中心であることから、若年層向けの PR として SNS やスマートフォンアプリを活用したりアルタイム情報提供や、観光施設・宿泊施設での案内設置が求められています。
- ・また、利用促進方策として、山田線や 106 特急・急行バスの沿線風景など観光資源を活かしたプロモーションや、地域イベントとの連携キャンペーンが有効であると考えます。

第4章 山田線利用促進アクションプラン

4-1 現状と課題

第2章及び第3章を踏まえ、現状と課題を整理します。

(1) 現状

- ・山田線は、沿岸と内陸を結ぶ重要な鉄道路線であり、通勤・通学・観光など多様な移動を支えています。
- ・一方で、利用者数は長期的に減少傾向にあります。
- ・沿線人口の減少、少子高齢化、マイカー利用率の増加、道路整備による所要時間短縮など、鉄道利用を取り巻く環境は厳しい状況にあります。
- ・利用実態調査では「運行本数の増加」「ICカード導入」などの要望が多く、利便性向上が課題となっています。

(2) 課題

- ・地元利用の減少：沿線住民の鉄道利用が減少しています。
- ・観光利用の拡大余地：沿線には魅力的な観光資源がありますが、情報発信やツアー造成が限定的です。
- ・利便性の課題：運行本数の少なさ、ICカード未導入、接続性不足など利用しやすさに課題があります。
- ・認知度の低さ：沿線地域や山田線の魅力、共同経営制度についての認知度が低い状況です。

以上のことから、山田線の維持には、「地元利用の底上げ」「観光利用の拡大」「利便性向上」「情報発信の強化」が不可欠です。これらの課題を解決するため、関係者が連携し、利用促進策を体系的に進める必要があります。

4-2 スローガン

山田線は、通学や通勤の移動手段のみならず、災害時の代替性・補完性や観光・物流など地域経済を支える重要な基盤であり、沿岸と内陸を結ぶ重要な路線です。幾度もの災害を乗り越え、復旧を重ねてきたその歴史は、地域の絆と鉄道の力強さを象徴しています。

また、三陸沿岸を運行する三陸鉄道においても、山田線等と接続していることで、公共交通ネットワークが構築され、利便性が高まっています。

しかし、人口減少、少子高齢化、マイカー利用の増加が進む中で山田線の利用者数は低迷を続けており、将来にわたり山田線を鉄路として維持していくためには、地域全体で山田線の役割を考え、より良い公共交通体系をつくり、山田線を利用することで支えていく必要があります。

以上のことから、山田線利用促進アクションプランのスローガンを「悠久の歴史と鉄道ロマン — 感じ、考え、利用する。—」とし、次の基本方針に基づいて、各種の事業・取り組みを進めることとします。

スローガン

悠久の歴史と鉄道ロマン — 感じ、考え、利用する。—

4-3 基本方針

「地元利用の底上げ」「観光客誘致」「利用環境の整備」の3点を柱とし、以下のとおり基本方針を定めました。

● **基本方針1 沿線住民のマイレール意識の醸成を図り、地元利用の底上げを図る**

山田線を将来にわたり、維持・確保していくためには、沿線住民の利用が不可欠です。山田線の良さを発信し乗車機会の創出を図るなど、マイレール意識の醸成を図り、地元利用の底上げを図ります。

● **基本方針2 沿線の地域資源の魅力を発信し、観光利用での誘客を図る**

山田線沿線は、自然豊かな環境にあり、森・川・海など魅力的な地域資源があります。また、沿線では様々なイベントが開催されます。沿線の魅力を県内や県外に広く発信することにより、観光利用での誘客を図ります。

● **基本方針3 誰もが利用しやすい公共交通環境の整備を図る**

誰もが目的地まで円滑に移動できる環境の整備は重要です。ハードとソフトの両面から、公共交通環境の整備を図ります。

4-4 計画の目標

本アクションプランの達成状況を評価するため、以下のとおり指標と数値目標を設定します。基本方針1～3に対し、それぞれ目標を設定しました。

基本方針	指標	現状値 (R6)	目標値 (R11)
1	山田線平均通過人員 (盛岡～宮古間)	93人/日	現状値以上
2	ツアー参加者数 ※1	16.6人/回	20.0人/回
3	基本方針3に掲げる事業・プロジェクトの実施件数 ※2	5件/7件	7件以上

※1 事業名1-⑤「山田線で行く閉伊川流域の旅」及び事業名1-⑥「盛岡市内を目的地としたツアー」に該当するツアーの1回当たりの参加者数とする。定員20名のツアーがあることから、その最大値を目標値とする。

※2 次ページ基本方針3「誰もが利用しやすい公共交通環境の整備を図る」に掲げる7つの事業の実施件数を目標値とする。

4-5 事業・プロジェクト概要

基本方針1 沿線住民のマイレール意識の醸成を図り、地元利用の底上げを図る

(●：実施主体 ○：連携・協力)

事業・プロジェクト名	県	盛岡市	宮古市	J R	民間/住民
① 利用拡大に向けた情報発信		●	●		○
② 利用者アンケート調査の実施		●	●		
③ 地域住民・団体等との協働・活動支援	●	●	●		●
④ 駅舎の活用		●	●	○	●
⑤ 山田線で行く閉伊川流域の旅			●		●
⑥ 盛岡市内を目的地としたツアー		○	●		●
⑦ 山田線セミナーの開催		●	●		●
⑧ 乗り方教室の実施		●		●	○
⑨ 中学生フリー定期券の交付			●		○
⑩ 通勤・通学定期券等購入費助成			●		
⑪ 通勤利用等の拡大	●	●	●		○
⑫ 106 特急・急行バスとの共同経営	○	○	○	●	●

基本方針2 沿線の地域資源の魅力を発信し、観光利用での誘客を図る

事業・プロジェクト名	県	盛岡市	宮古市	J R	民間/住民
①【再掲】山田線で行く閉伊川流域の旅			●		●
②【再掲】盛岡市内を目的地としたツアー		○	●		●
③ 地域資源・魅力の情報発信	●	●	●	○	○
④ 山田線利用促進ツアー		○	●	●	●
⑤ 沿線イベントとの連携		○	●	●	○
⑥ モデルルートの作成	○	●	●		○
⑦ サイクルトレインの導入検討	●	●	●	●	
⑧ 企画列車のおもてなし	○	●	●		○
⑨ 利用PR活動	●	●	●	○	○
⑩ 三陸鉄道との連携	●	○	●	●	●

基本方針3 誰もが利用しやすい公共交通環境の整備を図る

事業・プロジェクト名	県	盛岡市	宮古市	J R	民間/住民
①【再掲】106 特急・急行バスとの共同経営	○	○	○	●	●
② 駅及び関連施設の維持管理		●	●	●	○
③ 駅施設の多言語表記の整備検討		●	●	●	
④ 公共交通マップ・沿線マップの作成			●		
⑤ 多言語マップの作成			●		
⑥ 接続に配慮したダイヤ設定		●	●	○	●
⑦ パークアンドライドの推進		●	●		

基本方針1 沿線住民のマイレール意識の醸成を図り、地元利用の底上げを図る

事業名：1-① 利用拡大に向けた情報発信					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	JR	民間(住民)
		●	●		○
事業内容	<p>・マイレール意識の醸成や山田線の魅力を発信するため、情報発信を積極的に行います。</p> <p>【地域住民に向けた情報発信】</p> <p>・「盛岡市バスの日まつり」や「宮古市公共交通まつり」などの各種イベントで、パネル展示やパンフレットを配布するなど、山田線の魅力を発信します。(盛岡市、宮古市)</p> <p>・盛岡市内の商業施設に設置のブックスタンドを活用し、利用促進パンフレットを配架します。(盛岡市)</p> <p>【生徒・学生に向けた情報発信】</p> <p>・沿線の中学校、高校、大学の卒業生や新入生を対象に、チラシや時刻表を配布します。(盛岡市)</p> <p>・沿線の中学校3年生を対象に、市で実施する通学定期券助成に関するチラシを配布し、進学後の山田線利用を呼びかけます。(宮古市)</p> <p>・漫画やロゴなど新たなコンテンツによる情報発信を展開し、魅力的で親しみやすい情報発信を行います。(盛岡市、宮古市)</p> <p>【子育て世代向けの情報発信】</p> <p>・子育て世代の利用拡大を図るため、子育て情報誌(発行部数22,000部)に特集記事を掲載します。(盛岡市)</p>				
スケジュール	R8	R9	R10	R11	
					

事業名：1-② 利用者アンケート調査の実施					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	JR	民間(住民)
		●	●		
事業内容	<p>・効果的な利用促進策を行うため、山田線を実際に使っている人を対象にアンケート調査を行い、利用環境の満足度、居住地や目的地、利用パターン等を把握します。</p>				
スケジュール	R8	R9	R10	R11	
					

事業名：1-③ 地域住民・団体等との協働・活動支援					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
		●	●	●	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や団体等と協働し、山田線の利用促進に繋がる活動を行います。 ・イベントの情報発信や山田線に関する資料・情報の提供などを通じて、地域住民等の活動を支援します。 ・利用促進及びマイレール意識の醸成を図ることを目的とした「J R山田線サポーター制度」の導入検討を行います。 				
	スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11

事業名：1-④ 駅舎の活用					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●	●	○
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・上米内駅は、一般社団法人次世代漆協会により、無人駅だった駅舎を利用し、カフェと工房を併設した施設として運営され、上米内エリアの情報発信拠点として活用されています。 ・上米内駅または上米内駅周辺施設等がおでかけの目的地となる企画を行い、山田線乗車の機会を創出します。(盛岡市) ・千徳駅や茂市駅は、地域住民が花壇の整備を行っており、引き続き利用環境の維持管理を行います。(宮古市) 				
イベントで賑わう上米内駅舎		住民が整備する茂市駅の花壇			
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	

事業名：1-⑤ 山田線で行く閉伊川流域の旅																							
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)																		
				●		●																	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 山田線の利用促進や閉伊川流域の地域振興を図るため、閉伊川流域の観光資源を活用した山田線のツアーを実施します。 ツアーは山田線の定期列車を利用し、宮古駅発着で設定します。また、閉伊川流域の観光資源を活かしたコースとして実施します。 令和8年度は委託事業として実施しますが、将来的には、民間事業者による自主催行ツアーとしての実施を検討します。さらには、民間事業者が旅行商品として多方面へ販売できる形を目指します。 <p>※R6実績：5回／参加者数103名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>地区</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>閉伊川の生き物観察&水辺の安全教室</td> <td>茂市</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>レールトレッキング&こびりづくり体験</td> <td>茂市</td> <td>23名</td> </tr> <tr> <td>E-BIKEで秋巡り&そば打ち体験</td> <td>陸中川井</td> <td>20名</td> </tr> <tr> <td>秋の紅葉&鞭牛ロード巡り</td> <td>茂市</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>区界高原 雪のゆうえんち</td> <td>区界</td> <td>19名</td> </tr> </tbody> </table>					内容	地区	参加者数	閉伊川の生き物観察&水辺の安全教室	茂市	16名	レールトレッキング&こびりづくり体験	茂市	23名	E-BIKEで秋巡り&そば打ち体験	陸中川井	20名	秋の紅葉&鞭牛ロード巡り	茂市	25名	区界高原 雪のゆうえんち	区界	19名
	内容	地区	参加者数																				
閉伊川の生き物観察&水辺の安全教室	茂市	16名																					
レールトレッキング&こびりづくり体験	茂市	23名																					
E-BIKEで秋巡り&そば打ち体験	陸中川井	20名																					
秋の紅葉&鞭牛ロード巡り	茂市	25名																					
区界高原 雪のゆうえんち	区界	19名																					
	 <p>駅舎での案内の様子</p>																						
スケジュール	R8	R9	R10	R11																			
	委託事業	民間事業者による 自主催行ツアー	旅行商品販売																				

事業名：1-⑥ 盛岡市内を目的地としたツアー												
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)							
		○	●		●							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・乗車機会の創出による利用促進を図るため、盛岡市内を目的地としたツアーを実施します。 ・盛岡市内のイベントに合わせたツアーや駅周辺のまち歩きなどを目的に実施しています。 ・ツアーは山田線の定期列車を利用し、宮古駅発着で設定します。 ・令和8年度は委託事業として実施しますが、将来的には、民間事業者による自主催行ツアーとしての実施を検討します。さらには、民間事業者が旅行商品として多方面へ販売できる形を目指します。 ※R6実績：3回／参加者数30名											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盛岡まち歩き&さんさ踊りパレード見学</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>歴史を感じる上盛岡ひと駅まち歩き</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>春の訪れを感じる盛岡まち歩き</td> <td>12名</td> </tr> </tbody> </table>		内容	参加者数	盛岡まち歩き&さんさ踊りパレード見学	12名	歴史を感じる上盛岡ひと駅まち歩き	6名	春の訪れを感じる盛岡まち歩き	12名		
内容	参加者数											
盛岡まち歩き&さんさ踊りパレード見学	12名											
歴史を感じる上盛岡ひと駅まち歩き	6名											
春の訪れを感じる盛岡まち歩き	12名											
ツアーの様子。写真左「三ツ石神社」、右「報恩寺」												
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11								
	委託事業	民間事業者による 自主催行ツアー	旅行商品販売									

事業名：1-⑦ 山田線セミナーの実施					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●	●	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 山田線沿線は、自然豊かな環境にあり、森・川・海など魅力的な地域資源が存在します。また、歴史的な施設も多くあります。 地域資源や歴史、車窓の楽しみ方を解説するセミナーを実施することで、沿線の魅力を発信します。 今後、セミナーの開催だけでなく、ワークショップを開催し、山田線と沿線の地域資源を合わせたツアー内容の検討を行います。将来的に、モニターツアーとして実施することを目指します。 <p>※R6実績：2回実施</p> <p>宮古市開催：9月実施／参加者数15名 盛岡市開催：2月実施／参加者数15名</p> <ul style="list-style-type: none"> また、開通周年等のタイミングで沿線住民を対象としたシンポジウムの開催を検討し、マイレール意識の醸成を図ります。 				
	スケジュール	R8	R9	R10	R11
	セミナー	ワークショップ		モニターツアー	

事業名：1-⑧ 乗り方教室の実施					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●		●
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 乗車方法の習得を図るため、沿線の小学校等を対象に、J R東日本盛岡支社の社員を講師とした乗り方教室を実施します。(盛岡市) 				
	 <p>沿線小学校で実施した乗り方教室</p>				
スケジュール	R8	R9	R10	R11	
	乗り方教室				

事業名：1-⑨ 中学生フリー定期券の交付																																																																										
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)																																																																					
			●		○																																																																					
事業内容	<p>・公共交通において、通学定期券の利用は重要な位置付けです。</p> <p>・人口減少により、生徒数が減少する中でいかに通学利用を確保するかが課題となっています。</p> <p>・公共交通の利用促進や子育て支援の推進を図るため、市内中学生を対象に市内の鉄道・バスが乗り放題となるフリー定期券を配布します。</p> <p>・乗車方法の習得や社会的能力の獲得により、高校進学後の定期利用が期待されます。</p> <p>※参考：R6 アンケート結果より (事前アンケート)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【公共交通の利用方法】</p> <table border="1"> <caption>【公共交通の利用方法】</caption> <tr><th>利用方法</th><th>割合</th></tr> <tr><td>知っている</td><td>63%</td></tr> <tr><td>知らない</td><td>37%</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【公共交通を利用しない理由】(複数選択可)</p> <table border="1"> <caption>【公共交通を利用しない理由】(複数選択可)</caption> <tr><th>理由</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>保護者等の送迎がある</td><td>136</td><td>81%</td></tr> <tr><td>徒歩・自転車で十分</td><td>87</td><td>52%</td></tr> <tr><td>利用方法が分からない</td><td>36</td><td>21%</td></tr> <tr><td>時刻が合わない</td><td>13</td><td>8%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>13</td><td>8%</td></tr> </table> </div> </div> <p>(事後アンケート)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>【利用した感想】</p> <table border="1"> <caption>【利用した感想】</caption> <tr><th>感想</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>初めて利用した</td><td>34</td><td>16%</td></tr> <tr><td>乗り方を覚えた</td><td>93</td><td>45%</td></tr> <tr><td>普段行かない場所に行けた</td><td>66</td><td>32%</td></tr> <tr><td>外出の機会が増えた</td><td>105</td><td>51%</td></tr> <tr><td>時刻等を調べるのが大変</td><td>49</td><td>24%</td></tr> <tr><td>時間に合わせた行動が大変</td><td>56</td><td>27%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>39</td><td>19%</td></tr> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>【卒業後の公共交通の利用意向】</p> <table border="1"> <caption>【卒業後の公共交通の利用意向】</caption> <tr><th>意向</th><th>人数</th><th>割合</th></tr> <tr><td>定期券で利用</td><td>177</td><td>43%</td></tr> <tr><td>天気が悪い時に利用</td><td>89</td><td>21%</td></tr> <tr><td>送迎できない時に利用</td><td>202</td><td>49%</td></tr> <tr><td>遠出するときに利用</td><td>128</td><td>31%</td></tr> <tr><td>利用しない</td><td>63</td><td>15%</td></tr> <tr><td>その他</td><td>3</td><td>1%</td></tr> </table> </div> </div>					利用方法	割合	知っている	63%	知らない	37%	理由	人数	割合	保護者等の送迎がある	136	81%	徒歩・自転車で十分	87	52%	利用方法が分からない	36	21%	時刻が合わない	13	8%	その他	13	8%	感想	人数	割合	初めて利用した	34	16%	乗り方を覚えた	93	45%	普段行かない場所に行けた	66	32%	外出の機会が増えた	105	51%	時刻等を調べるのが大変	49	24%	時間に合わせた行動が大変	56	27%	その他	39	19%	意向	人数	割合	定期券で利用	177	43%	天気が悪い時に利用	89	21%	送迎できない時に利用	202	49%	遠出するときに利用	128	31%	利用しない	63	15%	その他	3	1%
利用方法	割合																																																																									
知っている	63%																																																																									
知らない	37%																																																																									
理由	人数	割合																																																																								
保護者等の送迎がある	136	81%																																																																								
徒歩・自転車で十分	87	52%																																																																								
利用方法が分からない	36	21%																																																																								
時刻が合わない	13	8%																																																																								
その他	13	8%																																																																								
感想	人数	割合																																																																								
初めて利用した	34	16%																																																																								
乗り方を覚えた	93	45%																																																																								
普段行かない場所に行けた	66	32%																																																																								
外出の機会が増えた	105	51%																																																																								
時刻等を調べるのが大変	49	24%																																																																								
時間に合わせた行動が大変	56	27%																																																																								
その他	39	19%																																																																								
意向	人数	割合																																																																								
定期券で利用	177	43%																																																																								
天気が悪い時に利用	89	21%																																																																								
送迎できない時に利用	202	49%																																																																								
遠出するときに利用	128	31%																																																																								
利用しない	63	15%																																																																								
その他	3	1%																																																																								
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11																																																																						
	中学生フリー定期券の交付																																																																									
		事業検証																																																																								

事業名：1-⑩ 通勤・通学定期券等購入費助成					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線人口の減少により、定期券利用は減少しています。 ・通勤・通学定期券、回数乗車券の購入者に対して購入費の一部を助成することにより、日常利用者の利用促進を図ります。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	助成実施				

事業名：1-⑪ 通勤利用等の拡大					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	●	●	●		○
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線人口の減少やマイカーの普及により、通勤における公共交通機関の利用は減少しています。 ・県は、県内の事業所や個人を対象に鉄道・バスなどの公共交通機関と車のスマートな使い分けにチャレンジする「公共交通スマートチャレンジ月間」を実施します。 ・両市は、通勤での公共交通の利用を促すため、職員を対象に毎週水曜日「ノーマイカーデー」(盛岡市)、「エコ通勤チャレンジ」(宮古市)を実施します。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	スマートチャレンジ月間 (県)				
	ノーマイカーデー (盛岡市)				
	エコ通勤チャレンジ (宮古市)				

事業名：1-⑫ 106 特急・急行バスとの共同経営					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	○	○	○	●	●
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ J R 東日本盛岡支社と岩手県北自動車は、公共交通の利用促進及び岩手県中央地域と沿岸地域の利便性向上の検証を目的に、山田線盛岡駅～宮古駅間（上盛岡駅、山岸駅、上米内駅を除く）を有効区間とする J R の乗車券類で 106 特急・急行バスを利用できる実証実験を行いました。（R6.4.1～R7.3.31） ・ 令和 7 年 2 月に独占禁止法特例法に基づく共同経営の認可を取得したことにより、令和 7 年度から J R の乗車券類で 106 特急・急行バスを利用できる仕組みを継続して実施しています。 ・ 多くの人にバス・鉄道を利用いただけるよう、県や沿線市は制度の周知を図ります。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	共同運行				
			事業検証		

基本方針 2 沿線の地域資源の魅力を発信し、観光利用での誘客を図る

事業名：2-①【再掲】山田線で行く閉伊川流域の旅					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●		●
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	ツアー実施				

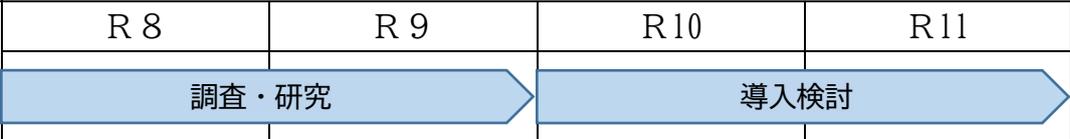
事業名：2-②【再掲】盛岡市内を目的地としたツアー					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
		○	●		●
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	委託事業	民間事業者による 自主催行ツアー	旅行商品販売		

事業名：2-③ 地域資源・魅力の情報発信					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	●	●	●	○	○
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 沿線の地域資源の魅力を発信するため、ホームページや SNS、広報紙など各種情報媒体を通じて、県内外への情報発信を積極的に行います。 鉄道ネットワークを活用した広域の観光振興を図るため、関係自治体と連携して取り組みます。 山田線の認知度を高めるため、ポータルサイトを作成し、管理・運営します。沿線の情報や山田線を利用したモデルルートを掲載します。 フォトコンテストの開催など、沿線の魅力を視覚的に発信する手法を検討します。 地元企業等と連携した付加価値サービスの提供を検討し、山田線の利用促進及び地域の活性化を図ります。 東京板橋区で開催される「盛岡デー・イン・東京」等で、パンフレットなどを配布します。(盛岡市) 県外イベント等で、パンフレットを配布するなど、山田線の利用を呼びかけます。(宮古市) 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	情報発信				

事業名：2-④ 山田線利用促進ツアー					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	JR	民間(住民)
			○	●	●
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 宮古市で開催される「真鱈まつり」や「毛ガニまつり」などのイベントに合わせた臨時列車の運行支援を行います。会場までの二次交通の確保、特産品贈呈、お振舞などのタイアップを実施します。 				
					
	活気あふれる「真鱈まつり」		冬の味覚を堪能できる「毛ガニまつり」		
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
					

事業名：2-⑤ 沿線イベントとの連携					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	JR	民間(住民)
			○	●	●
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 沿線で開催されるイベントと連携し、山田線での来場を呼びかけます。 令和5、6年度は、宮古市区界で2月に開催された「雪のゆうえんち」に合わせ、快速リアスを区界駅に臨時停車させ、山田線の利用環境を整えました。また、山田線を利用してイベントに来場した人へ乗車特典を付けるなど、山田線での来場を呼びかけました。 				
					
	人で賑わう区界駅とイベント会場				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
					

事業名：2-⑥ モデルルートの作成					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	○	●	●		○
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・観光客などが山田線を利用して沿線スポットを円滑に移動できるよう、モデルルートを作成し、広く周知を図ります。 ・沿線にトレイルルートを設定し、コンテンツ化することにより、トレイルハイカー、観光客などの新規利用者の増を図ります。 ・106 急行・特急バスとの共同経営が始まっていることから、山田線だけでなく、106 バスと組み合わせた、モデルルートを提案します。 				
	 <p>沿線沿いにあふれる自然。写真左「閉伊川」、右「兜明神岳」</p>				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	モデルルート作成			周知	

事業名：2-⑦ サイクルトレインの導入検討					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	●	●	●	●	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクルトレインとは、自転車を鉄道の車内にそのまま持ち込むことができるサービスです。鉄道と自転車を組み合わせることにより、行動範囲の拡大、新たな観光ルートの創出が見込まれ、鉄道の利用促進につながることを期待されます。 ・昨今では、観光路線やローカル線活性化の一環としても、サイクルトレインの実施事例が増えています。 ・山田線においても、利用状況を踏まえ、導入の検討を進めます。 				
					
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	調査・研究			導入検討	

事業名：2-⑧ 企画列車のおもてなし					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	○	●	●		○
事業内容	・沿線で企画列車やイベント列車の運行に合わせて、沿線駅などでの出迎えやお見送りを実施します。				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	おもてなしの実施				

事業名：2-⑨ 利用PR活動					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	●	●	●	○	○
事業内容	<p>・沿線の魅力を発信することにより山田線を利用いただけるよう、盛岡駅などでPR活動を実施します。山田線の沿線マップや観光パンフレットを配布することにより、PRします。</p> <p>・令和6年度は、盛岡宮古開通90周年に合わせ、盛岡駅でPRを行いました。</p>				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	PR活動				



盛岡駅でのPRの様子

事業名：2-⑩ 三陸鉄道との連携					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	●	○	●	●	●
事業内容	<p>・山田線は、三陸沿岸を運行する三陸鉄道と宮古駅で接続しています。</p> <p>・三陸鉄道との連携により、相互乗り入れや盛岡～久慈間の直通列車の運行などを行います。</p>				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	連携				

基本方針3 誰もが利用しやすい公共交通環境の整備を図る

事業名：3-①【再掲】106 特急・急行バスとの共同運行					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
	○	○	○	●	●
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	共同運行				
				事業検証	

事業名：3-② 駅及び関連施設の維持管理					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
		●	●	●	○
事業内容	<p>・支障木の伐採、枝葉の刈払い等を計画的に実施し、安全安定輸送の確保を図ります。</p> <p>・利便性を確保するため、市が設置・所有する駅施設等について適切に管理します。</p> <p>【管理施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上盛岡駅・山岸駅・上米内駅の自転車駐輪場 ・上米内駅の無料駐車場 ・養目トイレ・茂市駅トイレ・腹帯駅トイレ ・宮古駅駅舎・陸中川井駅駅舎 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	維持管理				

事業名：3-③ 駅施設の多言語表記の整備検討						
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)	
		●	●	●		
事業内容	<p>・駅施設等の案内表示、誘導表示等を多言語表記にすることにより、外国人観光客受け入れ環境の整備を図ります。</p> <p>・外国人来訪者も安心して鉄道の利用や目的地まで移動できる環境を整えます。</p>					
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11		
	現状把握			整備計画検討		

事業名：3-④ 公共交通マップ・沿線マップの作成					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者に分かりやすい公共交通情報を提供するため、市内の多様な公共交通網を集約した公共交通マップや時刻表を作成します。 ・山田線の魅力を発信するため、沿線マップを作成・配布します。 ・沿線の施設のほか、車窓からの見どころを掲載するなど、乗車いただける工夫をします。 ・沿線マップは、駅や公共施設などで配布します。その他、県外のイベント等で配布することにより、魅力を広く発信します。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
					

事業名：3-⑤ 多言語マップの作成					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
			●		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語表記の沿線マップを作成することにより、外国人観光客の誘客を図ります。 ・山田線沿線の魅力を広く発信します。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
					

事業名：3-⑥ 接続に配慮したダイヤ設定					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
		●	●	○	●
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・宮古市が運行する地域バス（コミュニティバス）は、幹線交通である山田線との接続に配慮したダイヤ設定を行います。 ・路線バスや三陸鉄道においても、乗り継ぎしやすいダイヤとなるよう、交通事業者へ働きかけます。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	ダイヤ設定・協議				

事業名：3-⑦ パークアンドライドの推進					
実施主体	県	盛岡市	宮古市	J R	民間(住民)
		●	●		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・パークアンドライドとは、自宅から駅まで自動車で行き、公共交通機関に乗り換えて目的地まで移動する方法です。公共交通の利用促進や二酸化炭素排出量の削減、交通渋滞の緩和が図られます。 ・パークアンドライドの周知などにより、公共交通機関の利用促進を図ります。 				
スケジュール	R 8	R 9	R 10	R 11	
	実施				

第5章 計画の推進体制と進め方

5-1 推進体制

本計画の推進と進行管理は、山田線沿線首長会議が主体となって実施します。下部組織として設置する山田線ワーキンググループの中で事業を具体化し、関係者が連携のうえ、取り組みを推進します。

5-2 進行管理

本計画で定めた数値目標の達成状況について評価を行います。このうち、実績値が毎年度把握できる指標については、毎年度進捗状況を把握するとともに、その達成状況に応じて、適宜、事業の見直しを図ります。

計画期間の最終年次（令和11年度）にはすべての数値目標の達成状況について把握・評価を行い、その後の計画策定や事業の見直し等につなげます。

本計画に位置付けられている各事業については、その進捗状況を毎年度把握するとともに、PDCAサイクルに基づいて必要な見直しを図ります。

首長会議は1月頃の開催を予定し、ワーキンググループはおおむね5、8、11月頃の開催を予定しますが、必要に応じて随時開催するものとします。

	大きなPDCAサイクル (計画期間：4年間)	小さなPDCAサイクル (年度ごと：1年間)
Plan (計画)	計画の策定	各年度の事業計画の策定
Do (実行)	計画に掲げる事業実施	事業計画の実施
Check (評価)	評価指標の検証、利用実態調査の実施	事業の実施状況と、事業実施による効果の検証
Action (見直し)	計画の見直し	事業の見直し 翌年度の事業計画への反映

■PDCAサイクルの概念

